

(様式第 10)

弘大病経第 230 号  
令和元年 10

厚生労働大臣 殿

弘前大学医学部附属病院長  
福田 眞

弘前大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和 23 年法律第 205 号)第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則(昭和 23 年厚生省令第 50 号)第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
氏 名	国立大学法人弘前大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

弘前大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地	電話(0172)33-5111
---------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	8代謝内科
⑨感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
5神経内科：脳神経内科にて診療を提供			
8代謝内科：糖尿病・代謝内科にて診療を提供			
10アレルギー疾患内科またはアレルギー科：小児科、皮膚科及び耳鼻咽喉科にて診療を提供			
11リウマチ科：整形外科及び内科にて診療を提供			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していな

い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科                      ②消化器外科                      ③乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      ⑥心臓血管外科                      7内分泌外科                      ⑧小児外科	
診療実績 7内分泌外科：乳腺外科及び外科にて診療を提供	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科    ⑦産婦人科 8産科    9婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    12放射線科    ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科    2矯正歯科    ③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科    2糖尿病・代謝内科    3形成外科    4病理診断科    5リハビリテーション科
6                      7
8                      9                      10                      11                      12                      13                      14
15                      16                      17                      18                      19                      20                      21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	6床	0床	0床	597床	644床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	361人	9人	364.7人	看護補助者	48人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	16人	0人	16.0人	理学療法士	11人	臨床検査技師	46人
薬 剤 師	28人	0人	28人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	24人	0人	24.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	616人	29人	638.3人	臨床工学士	20人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	15人
歯科衛生士	0人	3人	2.3人	歯科技工士	1人	事務職員	158人
管理栄養士	6人	0人	6.0人	診療放射線技師	40人	その他の職員	13人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	44人	眼科専門医	7人
外科専門医	34人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	2人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	14人	整形外科専門医	15人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	10人
産婦人科専門医	12人	救急科専門医	4人
		合 計	187人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 福田 眞作 ) 任命年月日 平成28年 4月 1日

H23. 12. 1~H27. 3. 31	リスクマネジメント対策委員会委員
H27. 4. 1~H28. 9. 30	リスクマネジメント対策委員会委員長
H28. 10. 1~現在	医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	485.3人	11.2人	496.6人
1日当たり平均外来患者数	1,523.6人	46.9人	1,570.6人
1日当たり平均調剤数			2,212.0剤
必要医師数			137人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			28人
必要(准)看護師数			303人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要		
集中治療室	793 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	26床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 43 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台			病床数 3床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 175 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名			薬剤部薬物療法支援室		
化学検査室	300m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	免疫発光測定装置・電気化学発光測定装置等		
細菌検査室	117m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	BHC-1607 II A2・高圧蒸気滅菌装置・テーブルトップ遠心機等		
病理検査室	148m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動染色装置・検体前処理装置等		
病理解剖室	66m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ホルマリン希釈混合装置・電動解剖鋸等		
研究室	10,356m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	遺伝子発現・薬剤分析システム・パーソナル次世代シーケンサー等		
講義室	274m <sup>2</sup>	鉄骨	室数	1室	収容定員	205人
図書室	1,341m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	3室	蔵書数	15万7千冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。



11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.1 %	逆紹介率	80.3 %
算出根拠	A:紹介患者の数		10,371 人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,053 人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		1,041 人
	D:初診の患者の数		12,521 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤野 安弘	青森県立中央病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
相馬 悌	黒石市国民健康保険黒石病院 院長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
長谷河 亜希子	弘前大学人文社会科学部 公共政策講座 准教授		法律に関する識見を有する	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
山崎 祥子	学校法人柴田学園東北女子大学 名誉教授		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
伊藤 悦朗	弘前大学大学院医学研究科 小児科学講座 教授 (副病院長)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
加藤 博之	弘前大学大学院医学研究科 総合診療医学講座 教授 (病院長補佐)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 ホームページに掲載	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法	0人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	2人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん	8人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺がん(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	経口内視鏡的筋層切開術	取扱患者数	11 人
当該医療技術の概要 食道アカラシアに対する内視鏡治療であり、低侵襲かつ有効性が高い。			
医療技術名	LC-SCRUMにおける肺癌の遺伝子解析	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要 希少な遺伝子異常を含めて網羅的に解析し、治療、新規薬剤の治験参加に活用される。			
医療技術名	αアンチトリプシン欠損症患者への補充療法	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 肺気腫が進行する疾患であるが、補充により病勢進行抑制が期待される。			
医療技術名	視線計測装置による発達障害診断	取扱患者数	200 人
当該医療技術の概要 2分間の視線計測(Eye Tracking)を用いて発達障害のスクリーニングを行う。短時間で実施でき、低侵襲である。また、検査待機問題も解消できる。 ※AMED研究・産学連携共同研究			
医療技術名	発達障害スクリーニングシステム	取扱患者数	1,200 人
当該医療技術の概要 5つの質問紙の組み合わせから、5歳における発達障害の可能性を独自に開発したアルゴリズム(特許申請中)でリスク児を抽出する。発達障害の早期発見に貢献できる。 ※特願2019-59991(平31.3.27)			
医療技術名	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 子宮腺筋症組織は、子宮筋層の中に複雑に入り込んでいることから、腺筋症組織のみを切除することが困難であった。このため新規に開発されたリング型の高周波切除器にて子宮腺筋症の病巣切除を行い、子宮温存さらに症状の改善、妊孕能の改善が見込まれる。			
医療技術名	悪性脳腫瘍に対する抗悪性脳腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	13 人
当該医療技術の概要 手術によって摘出した腫瘍組織から、複数の抗がん薬耐性遺伝子を測定し、より感受性のある抗がん薬を選択することができる。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	91
2	筋萎縮性側索硬化症	14	57	特発性拡張型心筋症	22
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	8
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	12	60	再生不良性貧血	15
6	パーキンソン病	109	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンテントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	25
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウース病	1	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	38	66	IgA腎症	24
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	16
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	49	68	黄色靱帯骨化症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	7	69	後縦靱帯骨化症	82
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	61
17	多系統萎縮症	11	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	30	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	9
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	0	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	12	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	26
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	85
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	8	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	62
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	16
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
34	神経線維腫症	11	89	リンパ管筋腫症	4
35	天疱瘡	15	90	網膜色素変性症	36
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	8	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	23
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	17	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	102
42	結節性多発動脈炎	3	97	潰瘍性大腸炎	199
43	顕微鏡的多発血管炎	22	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	13	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	パージャー病	2	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	202	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	51	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	65	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	25	107	全身型若年性特発性関節炎	3
53	シェーグレン症候群	10	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	11	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	3	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	2	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	2



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイクロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	4	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無 $\beta$ リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	35	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	5
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	2	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	4
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	2
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	34

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクロームスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 救命救急入院料
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 特定集中治療室管理料
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料
・ 特定機能病院入院基本料	・ 新生児特定集中治療室管理料
・ 超急性期脳卒中加算	・ 小児入院医療管理料
・ 診療録管理体制加算	・
・ 医師事務作業補助体制加算	・
・ 急性期看護補助体制加算	・
・ 看護職員夜間配置加算	・
・ 看護補助加算	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ 医療安全対策加算	・
・ 感染防止対策加算1, 感染防止対策地域連携加算	・
・ 抗菌薬適正使用支援加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 後発医薬品使用体制加算	・
・ データ提出加算	・
・ 入退院支援加算	・
・ 精神疾患診療体制加算	・

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病合併症管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん性疼痛緩和指導演料	・胎児心エコー法
・がん患者指導演料	・ヘッドアップティルト試験
・外来緩和ケア管理料	・人工臓器検査
・移植後患者指導演料(臓器移植後)	・皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導演料(造血幹細胞移植後)	・長期継続頭蓋内脳波検査
・糖尿病透析予防指導演料	・神経学的検査
・院内トリアージ実施料	・補聴器適合検査
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん治療連携計画策定料	・内服・点滴誘発試験
・ハイリスク妊産婦連携指導演料1	・センチネルリンパ節生検(片側)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算2
・薬剤管理指導演料	・ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料1, 2	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	・CT撮影及びMRI撮影
・歯科治療時医療管理料	・冠動脈CT撮影加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導演料	・外傷全身CT加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導演料	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算	・乳房MRI撮影加算
・遺伝学的検査	・小児鎮静下MRI撮影加算
・骨髄微小残存病変量測定	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算(IV)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝カウンセリング加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ がん患者リハビリテーション料	・ 植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・ 認知療法・認知行動療法1	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・ 硬膜外自家血注入	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・ 人工腎臓	・ 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・ 導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・ 人工膵臓療法	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・ 肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・ 手術用顕微鏡加算	・ 内視鏡下筋層切開術
・ 口腔粘膜処置	・ CAD/CAM冠
・ 有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算	・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・ 皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・ 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・ 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・ 経皮的中隔心筋焼灼術
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁に対して実施する場合)	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・ 羊膜移植術	・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・ 網膜再建術	・ 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・ 人工中耳植込術	・ 補助人工心臓
・ 人工内耳植込術	・ 植込型補助人工心臓(非拍動流型)

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下肝切除術	・歯周組織再生誘導手術
・生体部分肝移植術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下腭腫瘍摘出術及び腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術	・歯根端切除手術の注3
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・口腔粘膜血管腫凝固術
・腹腔鏡下小切開副腎摘出術	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・麻酔管理料(II)
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・放射線治療専任加算
・同種死体腎移植術	・外来放射線治療加算
・生体腎移植術	・高エネルギー放射線治療
・膀胱水圧拡張術	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・定位放射線治療
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・
・輸血管理料 I	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・自己生体組織接着剤作成術	・
・自己クリオプレシピレート作製術(用手法)	・



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除術	・
・実物大臓器立体モデルによる手術支援	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
 (注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・消化器(内科・外科)病理合同カンファレンス週1回 ・泌尿器・病理合同カンファレンス週1回 ・細胞診カンファレンス月1回 ・脳神経外科・病理合同カンファレンス月1～2回 ・婦人科・病理合同カンファレンス月1回 ・呼吸器・病理合同カンファレンス週1回 ・リンパ腫カンファレンス月1回 ・その他不定期の検討会月数回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 28 例 / 剖検率 10.8 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
前立腺癌の過剰診断と過剰治療を回避する糖鎖バイオマーカーの実用化	大山 力	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	4,700,000円	補委 日本学術振興会
ダウン症候群に合併する急性巨核芽球性白血病の多段階発症の分子機構	伊藤 悦朗	大学院医学研究科 小児科学講座	7,200,000円	補委 日本学術振興会
うつ病の個別化医療：遺伝子-環境相互作用を包括したPK-PD-PGxモデルの構築	古郡 規雄	大学院医学研究科 神経精神医学講座	680,000円	補委 日本学術振興会
術後譫妄・認知機能低下および敗血症性譫妄の発症機序解明と予防法の開発	廣田 和美	大学院医学研究科 麻酔科学講座	2,000,000円	補委 日本学術振興会
膝蓋骨不安定症に対する電気生理学的、生体力学的側面から見た評価方法の確立	津田 英一	大学院医学研究科 リハビリテーション医学講座	600,000円	補委 日本学術振興会
前立腺癌細胞表面糖鎖を標的としたバイオマーカーの探索と新規治療法の検討	飛澤 悠葵	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	200,000円	補委 日本学術振興会
スピラベル法による遺伝性角化異常症の角質の構造異常の解析	皆川 智子	医学部附属病院 検査部(皮膚科)	1,000,000円	補委 日本学術振興会
5歳児における発達障害の診断手法の開発と疫学研究	斉藤 まなぶ	医学部附属病院 神経科精神科	725,000円	補委 日本学術振興会
大動脈弁石灰化モデル動物を用いた石灰化抑制機序の解明と治療法の確立	大徳 和之	医学部附属病院 医療安全推進室(呼吸器外科, 心臓血管外科)	1,000,000円	補委 日本学術振興会
生活習慣との相互作用を考慮した生活習慣病発症感受性遺伝因子の検索及び応用	大門 眞	大学院医学研究科 内分泌代謝内科学講座	600,000円	補委 日本学術振興会
カルシウム感受性制御を介した冠攣縮性狭心症の新たな機序解明と治療戦略	富田 泰史	大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座	1,400,000円	補委 日本学術振興会
ヒアルロン酸合成阻害剤を用いた進行再発大腸癌に対する新規治療の開発	坂本 義之	医学部附属病院 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	500,000円	補委 日本学術振興会
ヒアルロン酸を標的とした癌微小環境の制御による新規腫瘍治療法の開発	袴田 健一	大学院医学研究科 消化器外科学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
好酸球性中耳炎の内耳病態に関する多角的な研究	松原 篤	大学院医学研究科 耳鼻咽喉科学講座	750,000円	補委 日本学術振興会
網膜色素変性に対するカルパイン分子標的を応用した新規治療法	中澤 満	大学院医学研究科 眼科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
歯周病菌がフレイルに与える影響の解明を目的とした疫学研究とフレイル予防法の開発	小林 恒	大学院医学研究科 歯科口腔外科学講座	800,000円	補委 日本学術振興会
ヘリコバクターピロリ感染および除菌が腸内細菌叢に与える影響を解明する大規模研究	珍田 大輔	大学院医学研究科 消化器血液内科学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
ビタミンAを介した腸管マクロファージ・オートファジー調節機序	平賀 寛人	大学院医学研究科 大館・北秋田地域医療推進学講座(消化器内科学講座)	900,000円	補委 日本学術振興会
シクロスポリンによるFLIPを介した腸上皮細胞ネクロトーシス抑制効果	櫻庭 裕丈	大学院医学研究科 地域医療学講座(消化器内科学講座)	1,400,000円	補委 日本学術振興会
呼吸音の自動解析・共有システムの確立と在宅・遠隔医療への展開	田坂 定智	大学院医学研究科 呼吸器内科学講座	400,000円	補委 日本学術振興会
ダイヤモンド・ブラックファン貧血の発症機序の解明と新規治療標的分子の同定	土岐 力	大学院医学研究科 小児科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
GATA1遺伝子変異による白血病発症の分子機構の解明	金崎 里香	大学院医学研究科 テニユア教員(小児科学講座)	1,200,000円	補委 日本学術振興会
抗体依存性細胞傷害活性を増強する免疫細胞療法の開発	工藤 耕	医学部附属病院 小児科	900,000円	補委 日本学術振興会
毛髪維持に必要なVII型コラーゲンの構造的特徴の解明	神 可代	大学院医学研究科 皮膚科学講座	800,000円	補委 日本学術振興会

間葉系幹細胞の免疫調整作用による新規乾癬治療法の開発	松崎 康司	医学部附属病院 皮膚科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
皮膚センチネルリンパ節の核医学的検出における新たな判定法の確立	三浦 弘行	医学部附属病院 放射線診断科	900,000円	補委	日本学術振興会
肝細胞癌の低酸素応答特性に基づいたTACE/Metformin併用療法の有用性	佐藤 まり子	医学部附属病院 放射線治療科	900,000円	補委	日本学術振興会
糖代謝と腫瘍血流量を組み合わせた肺癌定位照射後の予後予測と早期再発診断法の確立	青木 昌彦	大学院医学研究科 放射線腫瘍学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
多能性成体幹細胞 (Muse細胞) 移植による損傷脊髄の修復	熊谷 玄太郎	大学院医学研究科 整形外科科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
筋層浸潤膀胱癌予後予測因子としてのプチリルコリンエステラーゼとグレリンの有用性	古家 琢也	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
腫瘍血管内皮細胞を標的とした中性子補足療法の開発	島山 真吾	医学部附属病院 泌尿器科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
卵巣癌腹膜播種への遺伝子治療の応用を目指して	横山 良仁	大学院医学研究科 産科婦人科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
トレハロース点眼の濾過細胞維持機能に関する基礎的臨床的研究	目時 友美	医学部附属病院 眼科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
がん間質での特異的免疫応答に着目した新規口腔粘膜炎治療の開発	久保田 耕世	医学部附属病院 歯科口腔外科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
ポリコナゾールの薬物動態に及ぼすC反応性蛋白および核内受容体遺伝子多型の影響	新岡 丈典	大学院医学研究科 薬剤学講座	500,000円	補委	日本学術振興会
ゲノムインプリンティングからみた卵巣粘液性癌の組織発生の解明	加藤 哲子	医学部附属病院 病理部	800,000円	補委	日本学術振興会
優性遺伝性アルツハイマー病弘前家系におけるパイオマーカーの研究	東海林 幹夫	大学院医学研究科 脳神経内科学講座	1,800,000円	補委	日本学術振興会
発達性協調運動障害の視覚情報処理機能の解明	吉田 和貴	医学部附属病院 神経科精神科	750,000円	補委	日本学術振興会
新しく提案された大人のADHDに関する疫学研究	栗林 理人	大学院医学研究科 子どものこころの発達研究センター	900,000円	補委	日本学術振興会
巨核球造血におけるホメオドメイン転写因子IRX1の機能解析	佐藤 知彦	医学部附属病院 小児科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
ダウン症のTAMにおいてGATA1変異タイプが好酸球増多症と肝障害に及ぼす影響	照井 君典	大学院医学研究科 小児科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
リボソーム蛋白遺伝子異常に着目したDiamond-Blackfan貧血の病因解明	神尾 卓哉	医学部附属病院 小児科	1,300,000円	補委	日本学術振興会
皮膚発癌におけるヒトパピローマウイルスE6/E7の役割とCD55陽性細胞との関連	六戸 大樹	大学院医学研究科 皮膚科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
皮膚におけるボルフィリン代謝の分子機構	中野 創	大学院医学研究科 皮膚科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
230kDa類天疱瘡抗原1の接着因子としての機能解析と免疫原性獲得機序の究明	会津 隆幸	大学院医学研究科 皮膚科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
高浸潤性増殖を呈する大腸癌における微小環境の病態解明とその増殖制御	諸橋 一	医学部附属病院 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科乳腺外科, 甲状腺外科	600,000円	補委	日本学術振興会
腫瘍克服をめざした細胞間質制御による腫瘍細胞不活化法の確立	石戸 圭之輔	大学院医学研究科 消化器外科科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
ティッシュエンジニアリングを応用した人工胸膜の開発	木村 大輔	大学院医学研究科 胸部心臓血管外科科学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
術後アウトカム指向麻酔法の探求: 内因性睡眠物質を応用した円滑な周術期管理への道標	榎方 哲也	大学院医学研究科 麻酔科学講座	500,000円	補委	日本学術振興会
ブドウ糖初期分布容量を指標とする体液評価法の確立と敗血症治療への応用	橋場 英二	医学部附属病院 集中治療部	400,000円	補委	日本学術振興会
重症くも膜下出血の治療法開発と臨床応用のための橋渡し研究	大熊 洋揮	大学院医学研究科 脳神経外科科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会

体内再生誘導メカニズムを応用した新鮮損傷膝前十字靭帯の修復法の開発	石橋 恭之	大学院医学研究科 整形外科科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
糖鎖分子標的リキッドバイオプシーによる前立腺癌悪性度評価マーカーの開発	米山 徹	大学院医学研究科 先進移植再生医学講座 (泌尿器科学講座)	800,000円	補委	日本学術振興会
プロスタノイドシグナルの新規解析技術の開発	麓 敏雄	大学院医学研究科 脳神経外科学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
大規模調査による非アルコール性脂肪性肝疾患と腸内細菌叢の関連の解明	遠藤 哲	医学部附属病院 消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	1,400,000円	補委	日本学術振興会
癌切除術における最適な全身麻酔薬の探求: 癌患者の予後改善を目指して	丹羽 英智	医学部附属病院 麻酔科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
胆道癌初期浸潤病巣における微小環境の機序解明	羽賀 敏博	大学院医学研究科地域総合診療医学推進学講座 (消化器内科学講座)	1,000,000円	補委	日本学術振興会
保健師等による自閉症スペクトラム障害の直接観察スクリーニングの開発	大里 絢子	大学院医学研究科 神経精神医学講座	500,000円	補委	日本学術振興会
高機能自閉スペクトラム症における早期スクリーニング精度の向上	足立 匡基	大学院医学研究科 子どものこころの発達研究センター	800,000円	補委	日本学術振興会
子どもの発達障害特性と感覚処理特性, 生活困難度の関連	安田 小響	大学院医学研究科 子どものこころの発達研究センター	600,000円	補委	日本学術振興会
前立腺がん鑑別および悪性度評価に有用な糖鎖性マーカーアレイの開発	小島 由太	医学部附属病院 泌尿器科	800,000円	補委	日本学術振興会
膀胱癌の血管外脱出過程における癌由来細胞外小胞の役割解明	米山 美穂子	医学部附属病院 泌尿器科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
血清N-結合型糖鎖の網羅的質量解析による腎盂・尿管癌の糖鎖バイオマーカーの開発	今西 賢悟	医学部附属病院 泌尿器科	800,000円	補委	日本学術振興会
前立腺癌の微小環境における高分子量ヒアルロン酸の腫瘍生物学的意義	佐藤 天童	医学部附属病院 泌尿器科	800,000円	補委	日本学術振興会
RPE65遺伝子変異網膜色素変性に対する9-シス-レチノイドによる視細胞保護効果	毛内 奈津姫	医学部附属病院 眼科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
カルパイン抑制ペプチドによる網膜変性遅延効果の光干渉断層計 (OCT) による解析	高橋 静	大学院医学研究科 地域医療学講座 (眼科学講座)	1,000,000円	補委	日本学術振興会
がん微小環境における癌関連線維芽細胞のmTORシグナル制御によるがん治療の新展開	古舘 健	医学部附属病院 歯科口腔外科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
ナノ〜マクロレベルにわたる新機軸ヒト胆道系3Dリンパ管システムマップの開発	鍵谷 卓司	大学院医学研究科 消化器外科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
Red Complexのアディポネクチンを介したインスリン抵抗性メカニズムの解明	田村 好弘	医学部附属病院 歯科口腔外科	600,000円	補委	日本学術振興会
線維芽細胞を起点とした骨代謝制御機構の解明と骨吸収性疾患治療への応用	伊藤 良平	大学院医学研究科 歯科口腔外科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
膵星細胞を介する2型糖尿病の膵導管癌への影響の検討	内田 知顕	医学部附属病院 高度救命救急センター	1,300,000円	補委	日本学術振興会
レプチンによる視床下部CRFニューロン調節メカニズム: 蛍光可視化マウスによる検討	山形 聡	医学部附属病院 内分泌内科, 糖尿病代謝内科	800,000円	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症における遂行機能障害のメカニズムと神経学的基盤の解明	高橋 芳雄	大学院医学研究科 子どものこころの発達研究センター	1,200,000円	補委	日本学術振興会
冠縮性狭心症における新たな機序解明: 細胞内シグナル伝達物質βアラレスチンの役割	花田 賢二	医学部附属病院 循環器内科, 腎臓内科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
母体血清中の胎児DNAを標的とする重症遺伝性皮膚疾患の画期的な出生前診断法	是川 あゆ美	医学部附属病院 皮膚科	1,500,000円	補委	日本学術振興会
RAGEとマクロファージ極性変化を標的とした糖尿病性神経障害の新規治療法の開発	遅野井 祥	医学部附属病院 内分泌内科, 糖尿病代謝内科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
骨盤内リンパ管トレースシステムを用いた下部直腸肛門管リンパ管マップの開発	佐藤 健太郎	大学院医学研究科 消化器外科学講座	1,900,000円	補委	日本学術振興会
大動脈弁異所性石灰化の原因細胞の同定とその機序解明及び石灰化抑制薬の開発	于 在強	医学部附属病院 高度救命救急センター	1,000,000円	補委	日本学術振興会
微細酸素気泡の血液溶解を利用した小型人工肺と圧電素子を用いた小型血流ポンプの開発	小渡 亮介	医学部附属病院 呼吸器外科, 心臓血管外科	700,000円	補委	日本学術振興会



早期変形性膝関節症診断基準の確立と診断に有用なバイオマーカーの探索	佐々木 英嗣	大学院医学研究科 整形外科科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
糖鎖関連バイオマーカーによる去勢抵抗性獲得予測および治療効果予測法の開発	石橋 祐介	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
エクソソームの膜に発現している糖鎖は転移臓器選択性に与するか	日下 歩	医学部附属病院 泌尿器科	900,000円	補委	日本学術振興会
GCNT2糖転移酵素による前立腺癌悪性度のリキッドバイオプシー評価法の開発	三上 穰太郎	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
オステオポンチン糖鎖に着目した尿路結石診断・予防薬開発に関する基礎研究	野呂 大輔	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
画像評価法とリキッドバイオプシーの併用による腎癌治療効果判定バイオマーカーの開発	細越 正吾	医学部附属病院 泌尿器科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
エクソソーム表面のヒアルロニダーゼに着目した膀胱癌浸潤・転移機序の解明	得居 範子	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
子宮内膜症を合併した不妊症におけるNK細胞機能分担と機能発現の解明	山谷 文乃	医学部附属病院 産科婦人科	1,400,000円	補委	日本学術振興会
心血管疾患リスクを有する妊娠女性の循環動態と代謝機構の変化の解明	飯野 香理	医学部附属病院 産科婦人科	400,000円	補委	日本学術振興会
超音波ガイド下腹部触診シミュレータの開発とその教育効果の混合研究法による検証	小林 只	医学部附属病院 総合診療部	1,600,000円	補委	日本学術振興会
膝前十字靭帯損傷予防を目指したコアマッスルトレーニング効果の科学的解明	木村 由佳	大学院医学研究科 整形外科科学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
NSAIDsによるAβ, αSオリゴマー形成抑制作用、および伝播抑制作用の検討	廣畑 美枝	大学院医学研究科 脳神経内科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
心肥大及び心不全に関するミトコンドリア機能障害におけるATP5Jの機能解明	宮本 奈穂美	大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座	530,000円	補委	日本学術振興会
H30年度地域がん登録及び全国がん登録事業	松坂 方士	医学部附属病院 医療情報部	6,343,575円	補委	青森県
H30年度がん登録データの活用によるがん検診制度管理モデル事業	松坂 方士	医学部附属病院 医療情報部	6,066,148円	補委	青森県
平成30年度弘前市5歳児発達健診事業委託	斉藤 まなぶ	医学部附属病院 神経科精神科	3,000,000円	補委	弘前市
平成30年度弘前市3歳児発達健診事業委託	斉藤 まなぶ	医学部附属病院 神経科精神科	1,000,000円	補委	弘前市
注視点検出技術を活用した発達障害診断システムの開発	斉藤 まなぶ	医学部附属病院 神経科精神科	6,000,000円	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
後縦靭帯骨化症に対する骨化制御機構の解明と治療法開発に関する研究	和田 簡一郎	医学部附属病院 整形外科	1,538,462円	補委	学校法人 慶応義塾 慶応義塾大学
先天性骨髄不全症の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインの確立に関する研究	伊藤 悦朗	大学院医学研究科 小児科学講座	11,539,000円	補委	国立保健医療科学院
小児がん等がん調査事業	伊藤 悦朗	大学院医学研究科 小児科学講座	4,000,000円	補委	青森県
麻酔科学分野に関する学術研究動向	廣田 和美	大学院医学研究科 麻酔科学講座	1,560,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
バイオマーカー価値検証	大山 力	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	15,730,000円	補委	コニカミノルタ株式会社
FDG-PETによるアルツハイマー病の診断に関する多施設共同研究	東海林 幹夫	大学院医学研究科 脳神経内科学講座	3,436,000円	補委	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
TAM-16におけるGATA1遺伝子解析	伊藤 悦朗	大学院医学研究科 小児科学講座	2,000,700円	補委	国立大学法人名古屋大学
オミクス解析技術と人工知能技術による難治性造血器疾患の病因解明と診断向上に貢献する解析基盤の開発	伊藤 悦朗	大学院医学研究科 小児科学講座	900,000円	補委	国立大学法人東京大学
日本人バイオナティブ関節リウマチ患者の超音波パワードップラースコアにみるアパタセプトによる関節炎症抑制効果	櫻庭 裕丈	大学院医学研究科 消化器血液内科学講座	42,766,100円	補委	ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

学童・思春期のこころの客観的指標と連携システムの開発	中村 和彦	大学院医学研究科 神経精神医学講座	13,000,000円	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
GATA1遺伝子解析及びGATA1変異を利用した微小残存病変の測定	照井 君典	大学院医学研究科 小児科学講座	2,600,000円	補 委	滋賀医科大学
Down症の急性巨核芽球性白血病発症を予測する革新的バイオマーカーの開発	伊藤 悦朗	大学院医学研究科 小児科学講座	25,119,000円	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
心房細動の発症予測・予後予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発を目的とした大規模コホート・レジストリー共同研究	奥村 謙 (富田 泰史)	大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座	14,950,000円	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	東海林 幹夫	大学院医学研究科 脳神経内科学講座	1,200,000円	補 委	国立研究開発法人 国立長寿医療研究 センター
若年性優性遺伝性アルツハイマー病に関する多元的臨床データ収集と共有化による効率的な病態解明	東海林 幹夫	大学院医学研究科 脳神経内科学講座	2,000,000円	補 委	公立大学法人大阪 市立大学
致死性不整脈のリスク因子と植込みデバイス適応の検討	佐々木 真吾	大学院医学研究科 不整脈先進治療学講座	390,000円	補 委	国立大学法人大阪 大学
新規動物実験用加速器BNCTシステムの実用性評価	青木 昌彦	大学院医学研究科 放射線腫瘍学講座	6,500,000円	補 委	青森県
アジア国際共同臨床試験を通じたDS-ALLにおける標準治療の開発	伊藤 悦朗	大学院医学研究科 小児科学講座	1,788,800円	補 委	国立大学法人鹿児 島大学
上部尿路癌における予後予測マーカーの開発	大山 力	大学院医学研究科 泌尿器科学講座	4,030,000円	補 委	宮城県立病院機構 宮城県立がんセン ター

小計10件

計116件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Iino C, Shimoyama T, Iino K, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Daidzein Intake Is Associated with Equol Producing Status through an Increase in the Intestinal Bacteria Responsible for Equol Production.	Nutrients. 2019 Feb 19;11(2). pii: E433. doi: 10.3390/nu11020433.	Original Article
2	Chinda D, Shimoyama T, Miyazawa K, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Estimation of perioperative invasiveness of colorectal endoscopic submucosal dissection evaluated by energy metabolism.	J Clin Biochem Nutr. 2018 Sep;63(2):164-167. doi: 10.3164/jcbs.18-12. Epub 2018 Apr 11.	Original Article
3	Iino C, Shimoyama T, Igarashi T, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Comparable efficacy of endoscopic transpapillary gallbladder drainage and percutaneous transhepatic gallbladder drainage in acute cholecystitis.	Endosc Int Open. 2018 May;6(5):E594-E601. doi: 10.1055/s-0044-102091. Epub 2018 May 8.	Original Article
4	Iino C, Shimoyama T, Chinda D, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Infection of Helicobacter pylori and Atrophic Gastritis Influence Lactobacillus in Gut Microbiota in a Japanese Population.	Front Immunol. 2018 Apr 6;9:712. doi: 10.3389/fimmu.2018.00712. eCollection 2018.	Original Article
5	Kawaguchi S, Yoshimura T, Sakuraba H, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Vimentin-positive gastric adenocarcinoma arising in a hyperplastic polyp.	Clin J Gastroenterol. 2018 Jun;11(3):245-250. doi: 10.1007/s12328-018-0828- 6. Epub 2018 Feb 7.	Case report
6	Chinda D, Shimoyama T, Mikami T, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Serum pepsinogen levels indicate the requirement of upper gastrointestinal endoscopy among Group A subjects of ABC classification: a multicenter study.	J Gastroenterol. 2018 Aug;53(8):924-931. doi: 10.1007/s00535-018-1431- 9. Epub 2018 Jan 20.	Original Article
7	Satake M, Sakuraba H, Hiraga H, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Successful treatment with tacrolimus of refractory pyoderma gangrenosum with pouchitis after restorative proctocolectomy for ulcerative colitis.	Immunol Med. 2018 Sep;41(3):142-146. doi: 10.1080/25785826.2018.153 1194. Epub 2018 Dec 3.	Case report
8	Igarashi G, Mikami K, Sawada N, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Interventional Treatment for Giant Hepatic Hemangioma Accompanied by Arterio-portal Shunt with Ascites.	Intern Med. 2018 Oct 1;57(19):2847-2851. doi: 10.2169/internalmedicine.06 55-17. Epub 2018 Apr 27.	Case report
9	Chikara IINO, Tadashi SHIMOYAMA, Takasato IGARASHI, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Validity of the Pre-endoscopic Scoring Systems for the Prediction of the Failure of Endoscopic Hemostasis in Bleeding	Gastroduodenal Peptic Ulcers. Intern Med. 57(10):1355- 1360, 2018	Original Article
10	Tetsu ARAI, Daisuke CHINDA, Tadashi SHIMOYAMA, et al.	消化器内科, 血液内 科, 膠原病内科	Influence of gastric endoscopic submucosal dissection on serum opsonic activity measured by chemiluminescence.	J Clin Biochem Nutr. 64(2):180-185, 2019	Original Article

小計10件

11	Shimada M, Shutto-Uchita Y, Yamabe H.	循環器内科, 腎臓内科	Lack of Awareness of Dietary Sources of Phosphorus Is a Clinical Concern.	In Vivo. 2019 Jan-Feb;33(1):11-16. doi: 10.21873/invivo.11432. Review.	Original Article
12	Yokota T, Higuma T, Endo T, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Prasugrel versus clopidogrel for residual thrombus burden in patients with ST-segment elevation myocardial infarction: an optical coherence tomography study.	Coron Artery Dis. 2018 Dec;29(8):663-669. doi: 10.1097/MCA.0000000000000663.	Original Article
13	Itoh T, Kimura M, Tomita H.	循環器内科, 腎臓内科	Intramural right ventricular inflow tract ventricular tachycardia successfully ablated from the anteroseptal tricuspid annulus and the right coronary cusp.	J Cardiovasc Electrophysiol. 2018 Oct;29(10):1446-1447. doi: 10.1111/jce.13670. Epub 2018 Jul 4. No abstract available.	Case report
14	Yokoyama H, Tomita H.	循環器内科, 腎臓内科	Reply to the Letter to the Editor "'30-minute-delta' and biological variation of high-sensitivity cardiac troponin I".	J Cardiol. 2018 Dec;72(6):506-507. doi: 10.1016/j.jcc.2018.05.004. Epub 2018 May 30. No abstract available.	Letter
15	Itoh T, Kimura M, Ishida Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Single atrial premature depolarizations for differential diagnosis of a long RP tachycardia: What is the diagnosis?	J Cardiovasc Electrophysiol. 2018 Oct;29(10):1457-1459. doi: 10.1111/jce.13646. Epub 2018 Jun 12. No abstract available.	Case report
16	Itoh T, Kimura M, Ishida Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Cycle length alternans during an atypical atrioventricular nodal re-entrant tachycardia utilizing a superior slow pathway.	Europace. 2018 Jul 1;20(7):1114. doi: 10.1093/europace/euy065. No abstract available.	Case report
17	Sasaki S, Tomita H, Tsurugi T, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Safety and Efficacy of Subcutaneous Cardioverter Defibrillator in Patients at High Risk of Sudden Cardiac Death - Primary Japanese Experience.	Circ J. 2018 May 25;82(6):1546-1551. doi: 10.1253/circj.CJ-17-1001. Epub 2018 Apr 11.	Original Article
18	Tomita H, Sasaki S, Hagii J, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Covert atrial fibrillation and atrial high-rate episodes as a potential cause of embolic strokes of undetermined source: Their detection and possible management strategy.	J Cardiol. 2018 Jul;72(1):1-9. doi: 10.1016/j.jcc.2018.03.002. Epub 2018 Mar 31. Review.	Review
19	Osanai T, Tanaka M, Mikami K, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Novel anti-aging gene NM_026333 contributes to proton-induced aging via NCX1-pathway.	J Mol Cell Cardiol. 2018 Dec;125:174-184.	Original Article
20	Ichikawa H, Narita I, Narita M, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Blood Pressure-Independent Effect of Olmesartan on Albuminuria in Mice Overexpressing Renin.	Int Heart J. 2018 Nov 28;59(6):1445-1453. doi: 10.1536/ihj.17-582. Epub 2018 Oct 25.	Original Article
21	Osanai T, Tanaka M, Izumiyama K, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Intracellular protons accelerate aging and switch on aging hallmarks in mice.	J Cell Biochem. 2018 Dec;119(12):9825-9837. doi: 10.1002/jcb.27302. Epub 2018 Aug 20.	Original Article
22	Kimura Y, Yamada M, Hanada K, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Relationship Between Serum Eicosapentaenoic Acid Levels and J-Waves in a General Population in Japan.	Int Heart J. 2018 Jul 31;59(4):736-740. doi: 10.1536/ihj.17-434. Epub 2018 Jun 6.	Original Article

小計12件

23	Yonekura M, Kondoh N, Han C, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Medaka as a model for ECG analysis and the effect of verapamil.	J Pharmacol Sci. 2018 May;137(1):55-60. doi: 10.1016/j.jpshs.2018.04.003. Epub 2018 Apr 12.	Original Article
24	Senoo M, Yokoyama H, Kato T, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Prognostic Impact of Snow Shoveling for Patients with Acute Myocardial Infarction.	Hirosaki Med J. 2019;69:13-145.	Original Article
25	Narita N, Hanada K, Senoo M, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Involvement of $\beta$ -arrestin in Endothelin Receptor Signaling : a Possible Role in the Pathogenesis of Pulmonary Arterial Hypertension.	Hirosaki Med J. 2019;69:146-154	Original Article
26	Kageyama K, Kinoshita N, Daimon M.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	A Case of Thyrotoxicosis due to Simultaneous Occurrence of Subacute Thyroiditis and Graves' Disease.	Case Rep Endocrinol. 2018 Oct 30;2018:3210317. doi: 10.1155/2018/3210317. eCollection 2018.	Case report
27	Matsumura K, Tamasawa N, Daimon M.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Possible Insulinotropic Action of Apolipoprotein A-I Through the ABCA1/Cdc42/cAMP/PKA Pathway in MIN6 Cells.	Front Endocrinol (Lausanne). 2018 Oct 30;9:645. doi: 10.3389/fendo.2018.00645. eCollection 2018.	Original Article
28	Mizushiri S, Daimon M, Murakami H, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Lower serum calcium levels are a risk factor for a decrease in eGFR in a general non-chronic kidney disease population.	Sci Rep. 2018 Sep 21;8(1):14213. doi: 10.1038/s41598-018-32627-4.	Original Article
29	Otaka H, Murakami H, Nakayama H, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Association between insomnia and personality traits among Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	J Diabetes Investig. 2019 Mar;10(2):484-490. doi: 10.1111/jdi.12927. Epub 2018 Oct 24.	Original Article
30	Kageyama K, Sakihara S, Kameda W, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Evaluation of growth hormone-releasing peptide-2 for diagnosis of thyrotropin-producing pituitary adenomas.	Endocr J. 2018 Oct 29;65(10):1049-1054. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0527. Epub 2018 Jul 5.	Original Article
31	Yagi H, Kageyama K, Kinoshita N, et al.	内分泌内科, 膠原病代謝内科	Relaxin-3 regulates corticotropin-releasing factor gene expression in cultured rat hypothalamic 4B cells.	Neurosci Lett. 2019 Jan 23;692:137-142. doi: 10.1016/j.neulet.2018.11.009. Epub 2018 Nov 6.	Original Article
32	Kishi K, Kubo K, Tomita T, et al.	神経科精神科	Insulinoma resembling a rapid eye movement sleep behavior disorder: a case report.	Int Med Case Rep J. 2019 Feb 21;12:51-54. doi: 10.2147/IMCRJ.S200489. eCollection 2019.	Case report
33	Tomita T, Yasui-Furukori N, Nakagami T, et al.	神経科精神科	Effects of personality on the association between paroxetine plasma concentration and response.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2018 Nov 29;14:3299-3306. doi: 10.2147/NDT.S187060. eCollection 2018.	Original Article
34	Takahashi M, Adachi M, Nishimura T, et al.	神経科精神科	Prevalence of pathological and maladaptive Internet use and the association with depression and health-related quality of life in Japanese elementary and junior high school-aged children.	Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2018 Dec;53(12):1349-1359. doi: 10.1007/s00127-018-1605-z. Epub 2018 Sep 25.	Original Article

小計12件

35	Adachi M, Takahashi M, Takayanagi N, et al.	神経科精神科	Adaptation of the Autism Spectrum Screening Questionnaire (ASSQ) to preschool children.	PLoS One. 2018 Jul 10;13(7):e0199590. doi: 10.1371/journal.pone.0199590. eCollection 2018. Erratum in: PLoS One. 2018 Aug 27;13(8):e0203254.	Original Article
36	Tomita T, Kudo S, Sugawara N, et al.	神経科精神科	The characteristics of understanding of depression among older patients treated with antidepressants: a comparison between older and younger patients.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2018 May 22;14:1319-1327. doi: 10.2147/NDT.S158254. eCollection 2018.	Original Article
37	Takahashi M, Wang G, Adachi M, et al.	神経科精神科	Differences in sleep problems between Japanese and Chinese preschoolers: a cross-cultural comparison within the Asian region.	Sleep Med. 2018 Aug;48:42-48. doi: 10.1016/j.sleep.2017.11.1145. Epub 2018 Jan 4.	Original Article
38	Tarakita N, Yoshida K, Sugawara N, et al.	神経科精神科	Differences in etiological beliefs about schizophrenia among patients, family, and medical staff.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2018 Dec 27;15:137-142. doi: 10.2147/NDT.S185483. eCollection 2019.	Original Article
39	Yoshida K, Nakamura K, Yasui-Furukori N.	神経科精神科	Suvorexant-Induced Delirium.	Prim Care Companion CNS Disord. 2018 Nov 15;20(6). pii: 18102297. doi: 10.4088/PCC.18102297. No abstract available.	Case report
40	Yoshida K, Otaka H, Murakami H, et al.	神経科精神科	Association between insomnia and coping style in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2018 Jul 10;14:1803-1809. doi: 10.2147/NDT.S168934. eCollection 2018.	Original Article
41	Sugawara N, Sato K, Takahashi I, et al.	神経科精神科	Irritable bowel syndrome and quality of life in a community-dwelling population in Japan.	Int J Psychiatry Med. 2018 May;53(3):159-170. doi: 10.1177/0091217417749791. Epub 2017 Dec 27.	Original Article
42	Kubo K, Fleischhacker WW, Suzuki T, et al.	神経科精神科	Placebo effects in adult and adolescent patients with schizophrenia: combined analysis of nine RCTs.	Acta Psychiatr Scand. 2019 Feb;139(2):108-116. doi: 10.1111/acps.12960. Epub 2018 Sep 9.	Original Article
43	Miyazaki K, Otaka M, Yasui-Furukori N.	神経科精神科	Tandospirone-Induced Rhabdomyolysis.	Clin Neuropharmacol. 2018 Nov/Dec;41(6):216-217. doi: 10.1097/WNF.0000000000000303.	Original Article
44	Sugawara N, Kudo S, Ishioka M, et al.	神経科精神科	Attitudes toward long-acting injectable antipsychotics among patients with schizophrenia in Japan.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2019 Jan 9;15:205-211. doi: 10.2147/NDT.S188337. eCollection 2019.	Original Article
45	Kudo K, Tanaka T, Kobayashi A, et al.	小児科	Zoledronic acid for relapsed Langerhans cell histiocytosis with isolated skull bone lesion.	Pediatr Int. 2019 Mar;61(3):315-317. doi: 10.1111/ped.13774. Epub 2019 Feb 21. No abstract available.	Case report

小計11件

46	Sasaki K, Ito Y, Kawame H, et al.	小児科	Fatal case of Hajdu-Cheney syndrome with idiopathic pulmonary hemosiderosis.	Pediatr Int. 2019 Feb;61(2):190-192. doi: 10.1111/ped.13764. Epub 2019 Feb 15. No abstract available.	Case report
47	Yagi H, Kageyama K, Kinoshita N, et al.	小児科	Relaxin-3 regulates corticotropin-releasing factor gene expression in cultured rat hypothalamic 4B cells.	Neurosci Lett. 2019 Jan 23;692:137-142. doi: 10.1016/j.neulet.2018.11.009. Epub 2018 Nov 6.	Letter
48	Kudo K, Ueno H, Sato T, et al.	小児科	Two siblings with familial neuroblastoma with distinct clinical phenotypes harboring an ALK germline mutation.	Genes Chromosomes Cancer. 2018 Dec;57(12):665-669. doi: 10.1002/gcc.22676. Epub 2018 Oct 22.	Case report
49	Toki T, Yoshida K, Wang R, et al.	小児科	De Novo Mutations Activating Germline TP53 in an Inherited Bone-Marrow-Failure Syndrome.	Am J Hum Genet. 2018 Sep 6;103(3):440-447. doi: 10.1016/j.ajhg.2018.07.020. Epub 2018 Aug 23.	Original Article
50	Watanabe S, Aizawa T, Tsukaguchi H, et al.	小児科	Long-term clinicopathologic observation in a case of steroid-resistant nephrotic syndrome caused by a novel Crumbs homolog 2 mutation.	Nephrology (Carlton). 2018 Jul;23(7):697-702. doi: 10.1111/nep.13244.	Case report
51	Tanaka H.	小児科	High prevalence of underlying orthostatic proteinuria in young Japanese women.	Pediatr Int. 2019 Mar;61(3):306-307. doi: 10.1111/ped.13781. Epub 2019 Mar 4	Original Article
52	Tanaka H.	小児科	Overweight Children at a Primary School in Hirosaki City: A Longitudinal, Individualized, Observational Study.	Tohoku J Exp Med. 2019 Mar;247(3):209-214. doi: 10.1620/tjem.247.209.	Original Article
53	Chiyoya M, Seya K, Yu Z, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Matrix Gla protein negatively regulates calcification of human aortic valve interstitial cells isolated from calcified aortic valves.	J Pharmacol Sci. 2018 Apr;136(4):257-265. doi: 10.1016/j.jphs.2018.03.004. Epub 2018 Mar 29.	Original Article
54	Yu Z, Minakawa M, Kondo N, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Total arch replacement for aortic arch aneurysm with coexisting middle aortic syndrome.	Int J Surg Case Rep. 2019;54:79-82. doi: 10.1016/j.ijscr.2018.11.049. Epub 2018 Nov 24.	Case report
55	Kimura D, Fukuda I, Tsushima T, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Management of acute ischemic stroke after pulmonary resection: incidence and efficacy of endovascular thrombus aspiration.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Mar;67(3):306-311. doi: 10.1007/s11748-018-1024-9. Epub 2018 Oct 26.	Original Article
56	Kowatari R, Suzuki Y, Daitoku K, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Simple Endovascular Repair for Symptomatic Aberrant Right Subclavian Artery in a Debilitated Patient.	Vasc Endovascular Surg. 2019 Feb;53(2):154-156. doi: 10.1177/1538574418805221. Epub 2018 Oct 10.	Case report

小計11件



57	Minakawa M, Fukuda I, Miyata H, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Outcomes of Pulmonary Embolectomy for Acute Pulmonary Embolism.	Circ J. 2018 Jul 25;82(8):2184-2190. doi: 10.1253/circj.CJ-18-0371. Epub 2018 Jun 27.	Original Article
58	Yu Z, Kondo N, Chiyoya M, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Selection and Determination of Treatment for the Spontaneous Isolated Dissection of the Superior Mesenteric Artery.	Ann Vasc Dis. 2018 Mar 25;11(1):101-105. doi: 10.3400/avd.oa.17-00120.	Case report
59	Chiyoya M, Kondo N, Taniguchi S, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Endovascular Treatment for a Perforated Superficial Femoral Vein Graft for an Infected Abdominal Aortic Aneurysm.	Ann Vasc Dis. 2019 Mar 25;12(1):91-94. doi: 10.3400/avd.cr.18-00095.	Original Article
60	Sato F, Kowatari R, Kondo N, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Two Surgical Patients with Paget-Schroetter Syndrome Presenting with Atypical Pathophysiology: Non-Effort Thrombosis.	Ann Vasc Dis. 2019 Mar 25;12(1):83-86. doi: 10.3400/avd.cr.18-00151.	Original Article
61	Hakamada K.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Cancer stroma-targeting therapy: A new tool for fighting pancreatic cancer?	Ann Gastroenterol Surg. 2019 Mar 1;3(2):120-121. doi: 10.1002/ags3.12244. eCollection 2019 Mar. No abstract available.	Others
62	Wakiya T, Ishido K, Kudo D, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Impact of Smoking Cessation in Donor Candidates for Living Donor Liver Transplantation.	Transplant Proc. 2018 Nov;50(9):2593-2596. doi: 10.1016/j.transproceed.2018.02.201. Epub 2018 Mar 19.	Original Article
63	Mitsuhashi Y, Wakiya T, Ishido K, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Long-term Changes in Spleen Volume After Living Donor Liver Transplantation in Pediatric Recipients.	Transplant Proc. 2018 Nov;50(9):2723-2725. doi: 10.1016/j.transproceed.2018.04.028. Epub 2018 Apr 12.	Original Article
64	Yoshida E, Kudo D, Nagase H, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	4-Methylumbelliferone Decreases the Hyaluronan-rich Extracellular Matrix and Increases the Effectiveness of 5-Fluorouracil.	Anticancer Res. 2018 Oct;38(10):5799-5804. doi: 10.21873/anticancer.12919.	Original Article
65	Suto A, Kudo D, Yoshida E, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Increase of Tumor Infiltrating $\gamma$ $\delta$ T-cells in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Through Remodeling of the Extracellular Matrix by a Hyaluronan Synthesis Suppressor, 4-Methylumbelliferone.	Pancreas. 2019 Feb;48(2):292-298. doi: 10.1097/MPA.0000000000001211.	Original Article
66	Sato K, Yamamura H, Sakamoto Y, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Necrotizing fasciitis of the thigh due to penetrated descending colon cancer: a case report.	Surg Case Rep. 2018 Nov 26;4(1):136. doi: 10.1186/s40792-018-0544-y.	Case report
67	Tsuruta S, Kimura N, Ishido K, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Calcifying nested stromal epithelial tumor of the liver in a patient with Klinefelter syndrome: a case report and review of the literature.	World J Surg Oncol. 2018 Nov 19;16(1):227. doi: 10.1186/s12957-018-1528-x. Review.	Case report
68	Kumagai G, Wada K, Kudo H, et al.	整形外科	Associations between cervical disc degeneration and muscle strength in a cross-sectional population-based study.	PLoS One. 2019 Jan 25;14(1):e0210802. doi: 10.1371/journal.pone.0210802. eCollection 2019.	Original Article



69	Yamamoto Y, Tsuda E, Maeda S, et al.	整形外科	Greater Laxity in the Anterior Cruciate Ligament-Injured Knee Carries a Higher Risk of Postreconstruction Pivot Shift: Intraoperative Measurements With a Navigation System.	Am J Sports Med. 2018 Oct;46(12):2859-2864. doi: 10.1177/0363546518793854. Epub 2018 Sep 7.	Original Article
70	Wada K, Tanaka T, Kumagai G, et al.	整形外科	A study of the factors associated with cervical spinal disc degeneration, with a focus on bone metabolism and amino acids, in the Japanese population: a cross sectional study.	BMC Musculoskelet Disord. 2018 May 17;19(1):153. doi: 10.1186/s12891-018-2055-1.	Original Article
71	Fujita T, Kumagai G, Liu X, et al.	整形外科	Poor Motor-Function Recovery after Spinal Cord Injury in Anxiety-Model Mice with Phospholipase C-Related Catalytically Inactive Protein Type 1 Knockout.	J Neurotrauma. 2018 Jun 15;35(12):1379-1386. doi: 10.1089/neu.2017.5492. Epub 2018 Mar 13.	Original Article
72	Chiba D, Tsuda E, Sasaki E, et al.	整形外科	Low prevalence of knee chondrocalcinosis and its catabolic association by use of serum matrix metalloproteinase 3: A rural Japanese population study.	Int J Rheum Dis. 2018 Nov;21(11):2011-2018. doi: 10.1111/1756-185X.13067. Epub 2017 Mar 24.	Original Article
73	Kimura Y, Tsuda E, Yamamoto Y, et al.	整形外科	Apophysitis of the greater trochanter in adolescent athletes: A report of 4 cases.	J Orthop Sci. 2019 Mar;24(2):373-376. doi: 10.1016/j.jos.2016.11.010. Epub 2016 Dec 3. No abstract available.	Case report
74	Kurose R, Tanaka D, Ishibashi Y.	整形外科	Bone change after surgical treatment of mucous cyst at the interphalangeal joint of the great toe in a patient with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol. 2019 Jan;29(1):188-191. doi: 10.1080/14397595.2016.1206245. Epub 2016 Jul 13.	Case report
75	Naraoka T, Kimura Y, Tsuda E, et al.	整形外科	Does Remnant Preservation Influence Tibial Tunnel Enlargement or Graft-to-Bone Integration After Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Hamstring Autografts and Suspensory Fixation? A Computed Tomography and Magnetic Resonance Imaging Evaluation.	Orthop J Sports Med. 2018 Aug 27;6(8):2325967118790238. doi: 10.1177/2325967118790238. eCollection 2018 Aug.	Original Article
76	Miura K, Tsuda E, Tohyama H, et al.	リハビリテーション科	Can arthroscopic Bankart repairs using suture anchors restore equivalent stability to open repairs in the management of traumatic anterior shoulder dislocation? A meta-analysis.	J Orthop Sci. 2018 Nov;23(6):935-941. doi: 10.1016/j.jos.2018.06.016. Epub 2018 Jul 26.	Original Article
77	Matsui A, Akasaka E, Rokunohe D, et al.	皮膚科	The first Japanese case of familial porphyria cutanea tarda diagnosed by a UROD mutation.	J Dermatol Sci. 2019 Jan;93(1):65-67. doi: 10.1016/j.jdermsci.2018.11.004. Epub 2018 Nov 15. No abstract available.	Letter
78	Matsuzaki Y, Minakawa S, Sagara C, et al.	皮膚科	Spontaneous remission of methotrexate-associated lymphoproliferative disorder with Epstein-Barr virus type II latency.	Eur J Dermatol. 2018 Oct 1;28(5):693-694. doi: 10.1684/ejd.2018.3372. No abstract available.	Case report
79	Korekawa A, Akasaka E, Rokunohe D, et al.	皮膚科	Nagashima-type palmoplantar keratoderma and malignant melanoma in Japanese patients.	Br J Dermatol. 2019 Feb;180(2):415-416. doi: 10.1111/bjd.17251. Epub 2018 Nov 4. No abstract available.	Letter

80	Matsuzaki Y, Takahashi M, Minakawa S, et al.	皮膚科	Cutaneous collagenous vasculopathy induced by the vascular endothelial growth factor receptor inhibitor axitinib.	Int J Dermatol. 2018 Dec;57(12):e167-e169. doi: 10.1111/ijd.14243. Epub 2018 Sep 19. No abstract available.	Letter
81	Korekawa A, Kaneko T, Nakano H, et al.	皮膚科	Pyogenic granuloma-like Kaposi's sarcoma on the first toe.	J Dermatol. 2018 Jul;45(7):e177-e178. doi: 10.1111/1346-8138.14251. Epub 2018 Feb 14. No abstract available.	Letter
82	Jin K, Matsuzaki Y, Akasaka E, et al.	皮膚科	Pyoderma gangrenosum triggered by switching from adalimumab to secukinumab.	J Dermatol. 2019 Mar;46(3):e108-e109. doi: 10.1111/1346-8138.14611. Epub 2018 Sep 7. No abstract available.	Letter
83	Jin K, Matsuzaki Y, Akasaka E, et al.	皮膚科	Irreversible bilateral cyanosis of the hands caused by hypothenar hammer syndrome with systemic sclerosis.	Eur J Dermatol. 2018 Aug 1;28(4):525-526. doi: 10.1684/ejd.2018.3311. No abstract available.	Case report
84	Minakawa S, Matsuzaki Y, Terui K, et al.	皮膚科	Tuberculous granuloma developed 9 years after bacillus Calmette-Guérin vaccination in a patient with immunodeficiency.	J Dermatol. 2018 Nov;45(11):e293-e295. doi: 10.1111/1346-8138.14468. Epub 2018 May 14.	Letter
85	Fukui T, Sawamura D.	皮膚科	Severe Kaposi's varicelliform eruption in mild atopic dermatitis complicated by rhabdomyolysis: A case report.	J Cutan Immunol Allergy. 2018;1:1-2. doi:10.1002/cia2.12013.	Case report
86	Kaneko T, Takiyoshi N, Fukui T, et al.	皮膚科	Acute generalized exanthematous pustulosis due to hydroxychloroquine after a prolonged latent period.	J Cutan Immunol Allergy. 2018;1:31-32. doi: 10.1002/cia2.12004	Case report
87	Minakawa S, Nakajima K, Kaneko T, et al.	皮膚科	Thymus and activation-regulated chemokine elevation and lymphocytosis in a case of diffuse large B-cell lymphoma.	J Cutan Immunol Allergy. 2018;1:41-43. <a href="https://doi.org/10.1002/cia2.12005">https://doi.org/10.1002/cia2.12005</a>	Case report
88	Konishi S, Hatakeyama S, Tanaka T, et al.	泌尿器科	Comparison of axitinib and sunitinib as first-line therapies for metastatic renal cell carcinoma: a real-world multicenter analysis.	Med Oncol. 2018 Nov 24;36(1):6. doi: 10.1007/s12032-018-1231-3.	Original Article
89	Kubota Y, Hatakeyama S, Narita I, et al.	泌尿器科	Clinical impact of glomerular basement membrane thickness on post-donation renal function in living donors.	Int J Urol. 2019 Feb;26(2):309-311. doi: 10.1111/iju.13850. Epub 2018 Nov 14. No abstract available.	Original Article
90	Fujita N, Koie T, Hashimoto Y, et al.	泌尿器科	Neoadjuvant chemohormonal therapy followed by robot-assisted and minimum incision endoscopic radical prostatectomy in patients with high-risk prostate cancer: comparison of perioperative and oncological outcomes at single institution.	Int Urol Nephrol. 2018 Nov;50(11):1999-2005. doi: 10.1007/s11255-018-1985-8. Epub 2018 Sep 18.	Original Article
91	Koie T, Ohyama C, Yoneyama T, et al.	泌尿器科	Robotic cross-folded U-configuration intracorporeal ileal neobladder for muscle-invasive bladder cancer: Initial experience and functional outcomes.	Int J Med Robot. 2018 Dec;14(6):e1955. doi: 10.1002/rcs.1955. Epub 2018 Sep 14.	Original Article

92	Yamamoto H, Koie T, Ookubo T, et al.	泌尿器科	Can single positive core prostate cancer at biopsy be considered a low-risk disease?	Int Urol Nephrol. 2018 Oct;50(10):1829-1833. doi: 10.1007/s11255-018-1966-y. Epub 2018 Aug 20.	Original Article
93	Soma O, Hatakeyama S, Okamoto T, et al.	泌尿器科	Clinical implication of a quantitative frailty assessment tool for prognosis in patients with urological cancers.	Oncotarget. 2018 Apr 3;9(25):17396-17405. doi: 10.18632/oncotarget.24712. eCollection 2018 Apr 3.	Original Article
94	Soma O, Hatakeyama S, Matsumoto T, et al.	泌尿器科	Opacity of big toenail predicts poor prognosis in patients with end-stage renal disease on hemodialysis.	Clin Exp Nephrol. 2018 Jun;22(3):668-676. doi: 10.1007/s10157-017-1495-5. Epub 2017 Oct 25.	Original Article
95	Hosogoe S, Hatakeyama S, Kusaka A, et al.	泌尿器科	Platinum-based Neoadjuvant Chemotherapy Improves Oncological Outcomes in Patients with Locally Advanced Upper Tract Urothelial Carcinoma.	Eur Urol Focus. 2018 Dec;4(6):946-953. doi: 10.1016/j.euf.2017.03.013. Epub 2017 Apr 7.	Original Article
96	Oikawa M, Hatakeyama S, Yoneyama T, et al.	泌尿器科	Significance of Serum N-glycan Profiling as a Diagnostic Biomarker in Urothelial Carcinoma.	Eur Urol Focus. 2018 Apr;4(3):405-411. doi: 10.1016/j.euf.2016.11.004. Epub 2016 Nov 22.	Original Article
97	Iwamura H, Hatakeyama S, Sato M, et al.	泌尿器科	Asymptomatic recurrence detection and cost-effectiveness in urothelial carcinoma.	Med Oncol. 2018 May 9;35(6):94. doi: 10.1007/s12032-018-1152-1. Review.	Original Article
98	Kido K, Hatakeyama S, Fujita N, et al.	泌尿器科	Oncologic outcomes for open and laparoscopic radical nephroureterectomy in patients with upper tract urothelial carcinoma.	Int J Clin Oncol. 2018 Aug;23(4):726-733. doi: 10.1007/s10147-018-1248-9.	Original Article
99	Kido K, Hatakeyama S, Hamano I, et al.	泌尿器科	Partial Cystectomy of Paraganglioma of the Urinary Bladder Before Living Kidney Transplantation: Case Report.	Transplant Proc. 2018 Apr;50(3):898-901. doi: 10.1016/j.transproceed.2018.01.015.	Case report
100	Kido K, Hatakeyama S, Imai A, et al.	泌尿器科	Sleep Disturbance Has a Higher Impact on General and Mental Quality of Life Reduction than Nocturia: Results from the Community Health Survey in Japan.	Eur Urol Focus. 2018 May 4. pii: S2405-4569(18)30107-X. doi : 10.1016 / j.euf. 2018.04.017.	Original Article
101	Momota M, Hatakeyama S, Yamamoto H, et al.	泌尿器科	Risk-stratified surveillance protocol improves cost-effectiveness after radical nephroureterectomy in patients with upper tract urothelial carcinoma.	Oncotarget. 2018 May 1;9(33):23047-23057. doi: 10.18632/oncotarget.25198. eCollection 2018 May 1.	Original Article
102	Hamano I, Hatakeyama S, Nakamura R, et al.	泌尿器科	Differences in semen characteristics between patients with testicular cancer and other malignancies using various cut-off values.	Int J Urol. 2018 Sep;25(9):817-824. doi: 10.1111/iju.13732. Epub 2018 Jul 2.	Original Article
103	Tanabu R, Sato K, Monai N, et al.	眼科	The findings of optical coherence tomography of retinal degeneration in relation to the morphological and electroretinographic features in RPE65 <sup>-/-</sup> mice.	PLoS One. 2019 Jan 29;14(1):e0210439. doi: 10.1371/journal.pone.0210439. eCollection 2019.	Original Article

104	Yamauchi K, Tanabu R, Monai N, et al.	眼科	The Spectral-Domain Optical Coherence Tomography Findings Associated with the Morphological and Electrophysiological Changes in a Rat Model of Retinal Degeneration, Rhodopsin S334ter-4 Rats.	Biomed Res Int. 2018 Nov 15;2018:5174986. doi: 10.1155/2018/5174986. eCollection 2018.	Original Article
105	Suzuki Y, Adachi K, Jinnai Y, et al.	眼科	Intraocular lens intracapsular fixation with unilateral loop suture for 180 degree Zinn's zonule dialysis.	Clin Ophthalmol. 2018 Oct 17;12:2087-2093. doi: 10.2147/OPTH.S176823. eCollection 2018.	Original Article
106	Kudo A, Kudo T, Takahashi D, et al.	眼科	Macular edema associated with intraocular ointment after cataract surgery.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2018 Mar 2;10:152-155. doi: 10.1016/j.ajoc.2018.02.027. eCollection 2018 Jun.	Case report
107	Monai N, Tanabu R, Gonome T, et al.	眼科	Intraoperative Adjunctive Mitomycin C and Cryotherapy for Recurrent Conjunctival Papillary Sebaceous Carcinoma.	Case Rep Ophthalmol. 2018 Mar 22;9(1):221-226. doi: 10.1159/000487704. eCollection 2018 Jan-Apr.	Case report
108	Yamauchi K, Nakazawa M, Kato C, et al.	眼科	Transient macular edema during smartphone usage.	Current Trends in Ophthalmology. 2018 Aug 7; 1 (1), 71-74, 2018. doi: 10.18314/CTOY.V1I1.1206	Case report
109	Miura T, Matsubara A, Kudo N, et al.	耳鼻咽喉科	The expression of thymic stromal lymphopoietin in patients and animal models with eosinophilic otitis media.	Acta Otolaryngol. 2018 May;138(5):447-451. doi: 10.1080/00016489.2017.1416170. Epub 2017 Dec 22.	Original Article
110	Goto S, Sasaki A, Takahashi I, et al.	耳鼻咽喉科	Relationship between cognitive function and balance in a community-dwelling population in Japan.	Acta Otolaryngol. 2018 May;138(5):471-474. doi: 10.1080/00016489.2017.1408142. Epub 2017 Dec 5.	Original Article
111	Fujita T, Miura H, Seino H, et al.	放射線科	Anatomical classification of breast sentinel lymph nodes using computed tomography-lymphography.	Anat Sci Int. 2018 Sep;93(4):487-494. doi: 10.1007/s12565-018-0441-2. Epub 2018 May 3.	Original Article
112	Fujita H, Hirose K, Sato M, et al.	放射線科	Metformin attenuates hypoxia-induced resistance to cisplatin in the HepG2 cell line.	Oncol Lett. 2019 Feb;17(2):2431-2440. doi: 10.3892/ol.2018.9869. Epub 2018 Dec 24.	Original Article
113	Tsushima F, Kakuta A, Kudo D, et al.	放射線科	Arterial Coil Embolization and Arterialization of the Portal Vein for a Ruptured Hepatic Artery after Partial Hepatectomy.	J Vasc Interv Radiol. 2018 Oct;29(10):1478-1480. doi: 10.1016/j.jvir.2018.01.001. No abstract available.	Letter
114	Noguchi S, Saito J, Nakai K, et al.	麻酔科	Factors affecting phantom limb pain in patients undergoing amputation: retrospective study.	J Anesth. 2019 Apr;33(2):216-220. doi: 10.1007/s00540-018-2599-0. Epub 2019 Jan 2.	Original Article

小計11件

115	Saito J, Tokita T, Takashima R, et al.	麻酔科	Usefulness of Continuous Renal Replacement Therapy During an Intra-Aortic Balloon Occlusion in Patients With Ruptured Abdominal Aortic Aneurysms.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2019 Aug;33(8):2237-2240. doi: 10.1053/j.jvca.2018.10.010. Epub 2018 Oct 13.	Original Article
116	Saito J, Nakai K, Kawaguchi J, et al.	麻酔科	Patent ductus arteriosus closure and somatic regional oxyhemoglobin saturation.	J Clin Monit Comput. 2019 Jun;33(3):403-405. doi: 10.1007/s10877-018-0184-6. Epub 2018 Aug 3.	Letter
117	Noguchi S, Saito J, Nakai K, et al.	麻酔科	Efficacy of abdominal peripheral nerve block and caudal block during robot-assisted laparoscopic surgery: a retrospective clinical study.	J Anesth. 2019 Feb;33(1):103-107. doi: 10.1007/s00540-018-2593-6. Epub 2018 Dec 6.	Original Article
118	Hirota K, Lambert DG.	麻酔科	Ketamine and depression.	Br J Anaesth. 2018 Dec;121(6):1198-1202. doi: 10.1016/j.bja.2018.08.020. Epub 2018 Oct 12. No abstract available.	Review
119	Saito J, Hirota K.	麻酔科	Haematocrit and plasma volume during induction of anaesthesia.	Acta Anaesthesiol Scand. 2018 Oct;62(9):1330-1331. doi: 10.1111/aas.13202. Epub 2018 Jul 2. No abstract available.	Original Article
120	Saito J, Noguchi S, Nakai K, et al.	麻酔科	General Anesthetic Management for Emergency Cesarean Section and Postpartum Hemorrhage in a Woman With Fontan Circulation.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2019 Mar;33(3):791-795. doi: 10.1053/j.jvca.2018.05.012. Epub 2018 May 16. No abstract available.	Case report
121	Toyooka KT, Niwa H, Hashiba E, et al.	麻酔科	Can tissue dielectric constant measurements assess circulating blood volume changes in patients undergoing haemodialysis?	Clin Physiol Funct Imaging. 2018 May;38(3):497-501. doi: 10.1111/cpf.12446. Epub 2017 Jun 18.	Original Article
122	Takekawa D, Kudo T, Saito J, et al.	麻酔科	Higher plasma leptin and lower C-peptide levels are associated with depression: A cross-sectional study.	J Affect Disord. 2019 Jan 15;243:70-74. doi: 10.1016/j.jad.2018.09.014. Epub 2018 Sep 11.	Original Article
123	Asano K, Kurose A, Kamataki A, et al.	脳神経外科	Importance and accuracy of intraoperative frozen section diagnosis of the resection margin for effective carmustine wafer implantation.	Brain Tumor Pathol. 2018 Jul;35(3):131-140. doi: 10.1007/s10014-018-0320-5. Epub 2018 Jun 14.	Original Article
124	Asano K, Katayama K, Kakuta K, et al.	脳神経外科	Prototype screwdriver stopper to avoid intracranial penetration injury.	Neurosurg Rev. 2018 Jul;41(3):895-898. doi: 10.1007/s10143-018-0980-y. Epub 2018 Apr 25.	Original Article
125	Katayama K, Matsuda N, Kakuta K, et al.	脳神経外科	The Effect of Goreisan on the Prevention of Chronic Subdural Hematoma Recurrence: Multi-Center Randomized Controlled Study.	J Neurotrauma. 2018 Jul 1;35(13):1537-1542. doi: 10.1089/neu.2017.5407.	Original Article
126	Shimamura N, Naraoka M, Matsuda N, et al.	脳神経外科	Intra-arterial oxidative stress correlates negatively with cognitive function and positively with postoperative ischemic lesions in carotid artery stenosis stenting.	J Neurointerv Surg. 2018 May;10(5):440-445. doi: 10.1136/neurintsurg-2017-013465. Epub 2017 Nov 28.	Original Article



127	Naraoka M, Matsuda N, Shimamura N, et al.	脳神経外科	Long-acting statin for aneurysmal subarachnoid hemorrhage: A randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	J Cereb Blood Flow Metab. 2018 Jul;38(7):1190-1198. doi: 10.1177/0271678X17724682 . Epub 2017 Aug 1.	Original Article
128	Osawa H, Kitahara R, Saitoh H, et al.	総合診療部	Electrocardiographic artifact due to an arteriovenous fistula.	Kidney Int. 2018 Jul;94(1):224. doi: 10.1016/j.kint.2017.11.033. No abstract available.	Case report
129	Maita H, Kobayashi T, Osawa H, et al.	総合診療部	Self-diagnosis of seasonal influenza in a rural primary care setting in Japan: A cross sectional observational study.	PLoS One. 2018 May 10;13(5):e0197163. doi: 10.1371/journal.pone.0197163. eCollection 2018.	Original Article
130	Kobayashi T, Maita H, Kato H	総合診療部	Medical ecology in near future of rapidly aging Japan: projected scenario	Technological Forecasting and Social Change. Volume 137, December 2018, Pages 327-329 https://doi.org/10.1016/j.techfore.2018.06.049	Others
131	Seino Y, Nakamura T, Kawarabayashi T, et al.	脳神経内科	Cerebrospinal Fluid and Plasma Biomarkers in Neurodegenerative Diseases.	J Alzheimers Dis. 2019;68(1):395-404. doi: 10.3233/JAD-181152.	Original Article
132	Seino Y, Nakamura T, Hirohata M, et al.	脳神経内科	Severe Chronic Inflammatory Demyelinating Polyneuropathy Ameliorated following High-dose (3 g/kg) Intravenous Immunoglobulin Therapy.	Intern Med. 2019 Mar 15;58(6):855-859. doi: 10.2169/internalmedicine.1723-18. Epub 2018 Nov 19.	Case report
133	Nakamura T, Kawarabayashi T, Seino Y, et al.	脳神経内科	Aging and APOE-ε 4 are determinative factors of plasma Aβ 42 levels.	Ann Clin Transl Neurol. 2018 Sep 7;5(10):1184-1191. doi: 10.1002/acn3.635. eCollection 2018 Oct.	Original Article
134	Kawarabayashi T, Nakamura T, Seino Y, et al.	脳神経内科	Disappearance of MRI imaging signals in a patient with neuronal intranuclear inclusion disease.	J Neurol Sci. 2018 May 15;388:1-3. doi: 10.1016/j.jns.2018.02.038. Epub 2018 Feb 23. No abstract available.	Case report
135	Yaguchi S, Yamamura H, Kamata K, et al.	救急科	Treatment strategy for a penetrating stab wound to the vertebral artery: a case report.	Acute Med Surg. 2018 Nov 28;6(1):83-86. doi: 10.1002/ams2.381. eCollection 2019 Jan.	Case report
136	Yaguchi S, Itoh K, Yamamura H.	救急科	New Triage System Using Digitized Information Entered Via A Digital Pen.	Hirosaki Medical Journal, 2019. 69: 78-85.	Original Article
137	Kon Takao, Nakagawa Hiroshi, Kubota Kosei, et al.	歯科口腔外科	A case of Langerhans cell histiocytosis of the mandible treated by intralesional injection of dexamethasone	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology(2212-5558)30巻6号 Page528-532(2018.11)	Original Article
138	Tanaka R, Matsuzaka M, Sasaki Y.	医療情報部	Influence of Income on Cancer Incidence and Death among Patients in Aomori, Japan	Asian Pac J Cancer Prev. 2018 Nov 29;19(11):3193-3202.	Original Article

139	Kato N, Sakamoto K, Murakami K, et al.	病理部	Genetic zygoty of mature ovarian teratomas, struma ovarii, and ovarian carcinoids.	Virchows Arch. 2018 Aug;473(2):177-182. doi: 10.1007/s00428-018-2319-z. Epub 2018 Feb 17.	Original Article
140	Kuwahara K, Kudo K, Yashima-Abo A, et al.	病理部	Classic Hodgkin lymphoma with osseous involvement mimicking Langerhans cell histiocytosis in a child.	Hum Pathol. 2018 Jul;77:147-151. doi: 10.1016/j.humpath.2017.12.016. Epub 2018 Jan 4.	Case report
141	Goto T, Tanabe T, Inamura T, et al.	臨床工学部	Effect of inflow cannula side-hole number on drainage flow characteristics: flow dynamic analysis using numerical simulation.	Perfusion. 2018 Nov;33(8):649-655. doi: 10.1177/0267659118782246. Epub 2018 Jun 29.	Original Article

計141件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 委員会構成，倫理審査申請から審査結果までの流れなど。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 109 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規程の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準，委員会構成など。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 7 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 ・ 臨床研究法の適用範囲について ・ 医療行為において審査が必要な事例について ・ 倫理申請書作成の留意点について	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

### 1 研修の内容

弘前大学医学部附属病院の専門医養成研修プログラムは、将来その分野の先端を担う人間性豊かな良医の育成と科学的な思考能力の涵養、最先端の医療技術の習得を目標としている。そのために、大学病院ならではの症例等の豊富さ、経験豊かな先輩医師、診療科を超えた総合的診療体制、大学院在籍中でも研修可能など多くのメリットを活用して、若き医師の学位、各領域認定医・専門医の資格取得などキャリアアップを支援する体制を整えている。従来から、以下の各学会の公認する専門医養成施設となっている。

日本内科学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本産科婦人科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本病理学会、日本臨床検査医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本消化器病学会、日本循環器学会、日本呼吸器学会、日本血液学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本肝臓学会、日本アレルギー学会、日本老年医学会、日本神経学会、日本消化器外科学会、呼吸器外科専門医合同委員会、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構、日本小児外科学会、日本感染症学会、日本心身医学会、日本リウマチ学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本周産期・新生児医学会、日本核医学会、日本集中治療医学会、日本輸血・細胞治療学会、日本透析医学会、日本臨床腫瘍学会、日本ペインクリニック学会、日本脳卒中学会、日本放射線腫瘍学会、日本肝胆膵外科学会、日本乳癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本高血圧学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本手外科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本口腔外科学会、日本顎関節学会、日本がん治療認定医機構・日本がん治療認定医機構（歯科口腔外科）、日本心療内科学会、日本熱傷学会、日本脳神経血管内治療学会、日本臨床細胞学会、日本緩和医療学会、日本頭頸部外科学会、日本インターベンショナルラジオロジー学会、日本認知症学会、日本小児循環器学会、日本生殖医学会、日本胆道学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本小児血液・がん学会、日本心臓血管麻酔学会、日本不整脈心電学会、日本感染症学会、日本小児口腔外科学会、日本脈管学会、日本カプセル内視鏡学会、日本消化管学会、日本口腔腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本内分泌外科学会、日本口腔科学会、日本食道学会、日本脊椎脊髄病学会、日本女性医学学会、日本リハビリテーション医学会、日本呼吸療法医学会

また、平成 30 年 4 月から新専門医制度による専門研修を開始しており、当院の専門研修プログラムは、以下 19 基本領域全てを整備している。

内科、精神科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳

鼻咽喉科、放射線科、産婦人科、麻酔科、脳神経外科、形成外科、救急科、臨床検査、病理、総合診療

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	294.92 人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
福田 眞作	消化器内科、血液内科、膠原病内科	教授	38年	
富田 泰史	循環器内科、腎臓内科	教授	21年	
田坂 定智	呼吸器内科、感染症科	教授	28年	
大門 眞	内分泌内科、糖尿病代謝内科	教授	37年	
富山 誠彦	脳神経内科	教授	33年	
佐藤 温	腫瘍内科	教授	31年	
中村 和彦	神経科精神科	教授	29年	
伊藤 悦朗	小児科	教授	38年	
福田 幾夫	呼吸器外科、心臓血管外科	教授	40年	
袴田 健一	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	教授	34年	
袴田 健一	小児外科	教授	34年	
石橋 恭之	整形外科	教授	31年	
澤村 大輔	皮膚科	教授	37年	
大山 力	泌尿器科	教授	35年	
中澤 満	眼科	教授	39年	
松原 篤	耳鼻咽喉科	教授	32年	
青木 昌彦	放射線治療科	教授	30年	
掛田 伸吾	放射線診断科	教授	23年	
横山 良仁	産科婦人科	教授	31年	
廣田 和美	麻酔科	教授	33年	
大熊 洋揮	脳神経外科	教授	36年	
漆館 聡志	形成外科	教授	24年	
花田 裕之	救急科	教授	33年	
津田 英一	リハビリテーション科	教授	29年	
萱場 広之	検査部	教授	37年	
黒瀬 顕	病理診断科	教授	32年	
加藤 博之	総合診療部	教授	35年	
小林 恒	歯科口腔外科	教授	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 福田眞作
管理担当者氏名	事務部長 川村金蔵

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病歴部、医療情報部、薬剤部、放射線部  概ね電子データで管理。処方せん、持参フィルム等一部の記録は、原本を中央カルテ室で保管。 紙診療記録については、診療記録管理規程により、病院外への持ち出しを禁止している。 医療情報パソコン及びローカル保存データは、情報管理システム運用管理規程の定めにより、システム管理者の許可を得て、病院外への持ち出しができることとなっている。	
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
		病院の管理及び運営に関する諸記録		規則第二十二條の三第三項に掲げる事項
高度の医療の提供の実績	経営企画課			
高度の医療技術の開発及び評価の実績				
高度の医療の研修の実績	総務課			
閲覧実績				
紹介患者に対する医療提供の実績	医事課			
掲げる事項	規則第一條の十一第一項に		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター
		院内感染対策のための委員会の開催状況	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 放射線部 検査部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課	ファイル形式(紙媒体)
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総合患者支援センター	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	医療安全推進室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 福田眞作	
閲覧担当者氏名	事務部長 川村金蔵	
閲覧の求めに応じる場所	病院 小会議室	
閲覧の手続の概要		
国立大学法人弘前大学情報公開取扱規程に基づき、閲覧要求に応じる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療安全管理に関する基本的考え方</li> <li>② 医療安全管理のための組織体制</li> <li>③ 院内報告体制</li> <li>④ 安全な医療を提供するための職員研修</li> <li>⑤ 安全確保を目的とした改善のための要点</li> <li>⑥ 医療事故発生時の対応</li> <li>⑦ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>⑧ 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>⑨ その他医療安全推進の要点</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 13 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討</li> <li>② 医療事故防止マニュアルの作成</li> <li>③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施</li> <li>④ 医療事故が発生した場合における速やかな原因究明のための調査・報告及び分析</li> <li>⑤ 医療事故の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び院内に勤務する者への周知</li> <li>⑥ 医療事故の改善のための方策の実施状況の調査、及び必要に応じた当該方策の見直し</li> <li>⑦ 医事紛争の予防・防止及びその対策</li> <li>⑧ 医療法第6条の10の規定に定められている医療事故（当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であって、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかったものとして厚生労働省令で定めるもの）が疑われる事例の検証</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療安全ハンドブック説明会</li> <li>② 輸血業務上の注意と輸血事故対応</li> <li>③ PICCカテーテル挿入講習会</li> <li>④ TeamSTEPS</li> <li>⑤ BLS指導者講習会・部署別講習会</li> <li>⑥ インフォームド・コンセントのピットフォール</li> <li>⑦ 医療機器安全管理研修会</li> <li>⑧ 「モンスターペイシェント」に屈しない院内作り・「パワーハラスメント」のない職場作り</li> <li>⑨ 医薬品安全管理研修会</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療事故発生時、安全管理委員会への報告</li> <li>② 医療事故の事例収集・分析により、院内での問題点を把握し、改善策の企画立案及び評価の上、情報を共有</li> <li>③ 重大な医療事故発生時の管理者への報告</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療関連感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>② 感染管理の組織と役割</li> <li>③ 職員に対する医療関連感染対策に関わる研修</li> <li>④ サーベイランス</li> <li>⑤ 院内感染発生時の報告体制・アウトブレイク時の対応</li> <li>⑥ 医療関連感染対策のための指針閲覧に関すること</li> <li>⑦ その他医療関連感染対策の推進に関する基本的な考え方</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療関連感染防止対策の検討</li> <li>② 医療関連感染防止マニュアルの作成</li> <li>③ 医療関連感染防止の教育、研修の実施</li> <li>④ 院内感染発生時の周知体制</li> <li>⑤ 院内感染発生時の原因分析、改善策立案・実施、職員への周知</li> <li>⑥ 委員会で立案された改善策の実施状況の調査・見直し</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 11 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>医療関連感染対策のための基本的考え方及び具体的方策並びに医療関連感染対策に対する意識向上を目的とした内容を実施</p> <p>以下、平成30年度院内感染対策研修会実施状況&lt;全職員対象&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療安全ハンドブック説明会 職業感染防止対策「針刺し・切創、皮膚・粘膜汚染」</li> <li>② 青森県抗菌化学療法セミナー 「感染症診療および抗菌薬適正使用マニュアルの解説1・2」</li> <li>③ 感染対策研修会 「感染対策の基礎 標準予防策を遵守しよう！」</li> <li>④ 感染対策研修会 「院内感染対策(疥癬)」「感染制御センターからのお知らせ」</li> <li>⑤ 感染対策研修会 「感染経路別予防策」</li> <li>⑥ 感染対策研修会 「手術部位感染の予防について」</li> <li>⑦ 青森県抗菌化学療法セミナー 「抗菌薬をより効かせるために1・2」</li> <li>⑧ 感染対策研修会 「流行性角結膜炎の流行とバンコマイシン耐性腸球菌の医療圏での拡散について」</li> <li>⑨ 感染対策研修会 「血液培養検査について」</li> </ul> <p>また、上記研修会のDVD上映会を実施。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 院内感染の発生状況を把握するため、院内での感染症の発生動向の情報を共有。</li> <li>② 重大な院内感染発生時、地域の専門家等に相談が行われる体制を確保。</li> <li>③ 「医療関連感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品安全管理研修会(開催日：平成31年3月13日)</li> <li>テーマ「覚えておいてほしい 医薬品管理の院内ルール」 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医薬品業務手順書改訂のポイント</li> <li>② インシデント報告から見た医薬品管理のポイント</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (○有・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医薬品採用・購入</li> <li>② 医薬品の管理全般</li> <li>③ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関すること</li> <li>④ 患者に対する与薬や服薬指導に関すること</li> <li>⑤ 医薬品情報の収集・管理・提供</li> <li>⑥ 他施設との連携</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 未承認薬 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未承認新規医薬品医療機器等評価部門に提出される「未承認新規医薬品医療機器等を用いた医療実施申請・承認・報告書」より情報を収集</li> </ul> </li> <li>② 適応外使用薬 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟担当薬剤師による使用状況のモニタリング、および使用者(主治医)から提出される「適応外使用薬剤報告書」より情報を収集</li> <li>・ 未承認新規医薬品医療機器等評価部門に提出される「未承認新規医薬品医療機器等を用いた医療実施申請・承認・報告書」より情報を収集</li> <li>・ 薬剤部内ミーティング(週1回開催)において、病棟担当薬剤師より報告される適応外使用情報を収集</li> </ul> </li> <li>③ 禁忌薬 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤部内ミーティング(月1回開催)において、副薬剤部長から報告される疑義照会(処方せん監査システムで「併用禁忌」が表示された場合)により情報を収集</li> <li>・ 未承認新規医薬品医療機器等評価部門に提出される「未承認新規医薬品医療機器等を用いた医療実施申請・承認・報告書」より情報を収集</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下咽頭梨状窩瘻に対するトリクロロ酢酸</li> <li>・ 感染性腹部大動脈瘤に対するリファンピシン水溶液(院内製剤)</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>① 薬剤部内ミーティングにおいて、各部門担当者より、処方せん疑義照会内容、ヒヤリハット事例、禁忌・適応外使用状況、インシデント事例、薬学的介入事例などの報告があり、全体に周知が図られている。</li> <li>② 月1回、病棟・外来常備薬の定数・使用期限チェックを実施している(向精神薬・毒薬も含む)。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 33 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療機器の有効性・安全性</li> <li>② 医療機器の使用手法</li> <li>③ 医療機器の保守点検</li> <li>④ 医療機器不具合発生時等の対応</li> <li>⑤ 医療機器使用に関して特に法令上遵守すべき事項</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 ( (有)・無 )</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>検査部門：各検査機器マニュアルに添付されている、デューリー・ウィークリー及びマンスリーの保守点検表のチェック</li> <li>放射線部門：①毎日の始業点検と終業点検、②定期保守点検(放射線治療機器、MRI装置、CT装置、血管撮影装置)、③消耗部品の耐久時間・過去の故障実績を鑑みたスポット点検、④故障時の修理・部品交換に合わせた点検</li> <li>臨床工学部部門：年間点検計画に基づき、定期点検又始業点検、動作中点検を行い、安全点検システムMARISで一括管理をしている。</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 )</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：なし</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>① 添付文書等の管理</li> <li>② 医療機器に係る安全性情報等の収集</li> <li>③ 病院管理者への報告</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が医療安全管理委員会の委員長となっている。委員会では、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者による報告が行われている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2 名 ) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【収集方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品・医療機器等安全情報 (PMDA よりメール)</li> <li>・医療安全情報 (日本医療機能評価機構よりメール)</li> <li>・注意喚起文書 (日病薬HP)</li> <li>・医薬品安全情報 (製薬メーカー, 医薬品販売業者) 等・緊急安全情報発出時には, 薬剤システム (湯山製作所) を用いて使用患者を特定</li> </ul> <p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急安全情報は即時に全診療部門, 全病棟, 使用医師に印刷物を配布</li> <li>・薬剤部医薬品情報室から定期的に発行している Drug Information に掲載</li> </ul> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・未承認新規医薬品医療機器を用いた医療実施申請書の確認により把握</li> <li>・各病棟担当者が当該医師に提出を依頼する「適応外使用薬剤報告書 (禁忌薬剤も含む)」により把握</li> </ul> </li> <li>② リスクの検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・未承認新規医薬品医療機器等評価部門での検討</li> <li>・未承認新規医薬品医療機器等評価委員会への審査依頼</li> <li>・医学科倫理委員会への審査依頼 (必要時)</li> <li>・薬剤部ミーティングで検討</li> </ul> </li> <li>③ 妥当性等の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・未承認新規医薬品医療機器を用いた医療審査結果通知書の結果通知で確認</li> <li>・薬剤部ミーティングで確認</li> </ul> </li> <li>④ 処方した医師等に対し処方変更等の提案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調剤・製剤担当者による疑義照会</li> <li>・各病棟担当者からの主治医へ伝達</li> </ul> </li> <li>⑤ 医薬品安全管理責任者への報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・副薬剤部長および薬剤部医薬品情報担当者 (DI 主任) が報告</li> </ul> </li> </ol> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種:</p> <p>(所属: 薬剤部 , 職種 薬剤師 (医薬品情報主任) )</p> <p>(所属: 薬剤部 , 職種 副薬剤部長 )</p> <p>(所属: , 職種 ) (所属: , 職種 )</p> <p>(所属: , 職種 ) (所属: , 職種 )</p> <p>(所属: , 職種 ) (所属: , 職種 )</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	①・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( ①・無 )</li> <li>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 :  インフォームド・コンセント実施責任者は、インフォームド・コンセントの構成の遵守状況を定期的に確認し、必要な指導を行うとともに、共有すべき事例を周知又は研修で取り上げるなど情報の共有を行う。</li> </ul>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	①・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 :  院内規程に基づきカルテ記載状況等の点検を行い、その結果を各診療科へフィードバックするとともに院内会議にて講評する。</li> </ul>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	①・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（0）名  うち医師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（0）名  うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名  うち看護師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名</li> <li>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</li> <li>※所属職員は、有資格者であり、医療安全に関する必要な知識の修得のための研修等を受講しており、医療安全管理委員会の構成員となっている。</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>① 医療事故の防止及び安全管理推進に係る診療科、中央診療施設等並びに病院内各部署への指導、監督</li> <li>② 診療科等が提出する患者に係る死亡報告書（別紙様式）に基づく、病院長への報告</li> <li>③ アクシデント、インシデント及び死亡事例についての調査、情報収集、報告の集計及び分析</li> <li>④ インフォームド・コンセントの適切な実施</li> <li>⑤ 事故、その他の医療安全推進室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録、その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施、その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく院内に勤務する者への必要な指導</li> <li>⑥ 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の確認</li> <li>⑦ その他リスクマネジメントに関すること。</li> </ol> </li> <li>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</li> <li>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</li> </ul>	



⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
  - ① 高難度新規医療技術実施申請の内容確認及び評価委員会実施。
  - ② 評価委員会の審議結果を申請診療科長等に通知し、病院長へ報告すること。
  - ③ 定期的及び術後に患者が死亡した場合等に、手術記録、診療録等の確認、法令及び当院要項等の遵守状況の確認をし、病院長へ報告すること。
  - ④ 委員会での審査資料、議事概要及び法令・要項等の遵守状況の確認の記録の保管。（審査又は確認の日から少なくとも5年間）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（13件）、及び許可件数（12件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
  - ① 未承認新規医薬品等を用いた医療実施申請の内容確認及び評価委員会実施
  - ② 評価委員会の審議結果を申請診療科長等に通知し、病院長へ報告すること。
  - ③ 定期的及び術後に患者が死亡した場合等に、手術記録、診療録等の確認、法令及び当院要項等の遵守状況の確認をし、病院長へ報告すること。
  - ④ 委員会での審査資料、議事概要及び法令・要項等の遵守状況の確認の記録の保管。（審査又は確認の日から少なくとも5年間）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 253 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及

び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 61 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- ① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討
- ② 医療事故防止マニュアルの作成
- ③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施
- ④ 医療事故が発生した場合における速やかな原因究明のための調査・報告及び分析
- ⑤ 医療事故の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び院内に勤務する者への周知
- ⑥ 医療事故の改善のための方策の実施状況の調査、及び必要に応じた当該方策の見直し
- ⑦ 医事紛争の予防・防止及びその対策
- ⑧ 医療法第6条の10の規定に定められている医療事故（当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であって、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかったものとして厚生労働省令で定めるもの）が疑われる事例の検証

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：熊本大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：浜松医科大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
  - ① 高難度新規医療技術実施後の報告が一部なされていない：報告書提出され、確認済み。
  - ② 病棟薬剤業務実施のカルテ記載：現状では、全てではないが必要事項はカルテ記載している。病棟薬剤業務実施加算が取れる体制での全てのカルテ記載を検討している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
総合患者支援センター内に、患者からの相談及び苦情全般に対応する部門を設置している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
  - ① 医療安全研修会「医療安全ハンドブック説明会」  
平成30年4月12日、13日、18日～21日、26日開催
  - ② 医療安全研修会「輸血業務上の注意と輸血事故対応」平成30年5月18日開催
  - ③ 医療安全研修会「PICCカテーテル挿入講習会」平成30年6月27日～29日開催
  - ④ 医療安全研修会「TeamSTEPPS」平成30年7月20日開催
  - ⑤ 医療安全研修会「BLS指導者講習会」・「BLS部署別講習会」  
平成30年7月～平成31年3月開催
  - ⑥ 医療安全研修会「インフォームド・コンセントのピットフォール」平成30年9月21日開催
  - ⑦ 医療機器安全管理研修会 平成30年11月20日、28日開催
  - ⑧ 医療安全研修会「モンスターペイシエントに屈しない院内作り・パワーハラスメントのない職場作り」平成31年3月5日開催
  - ⑨ 医薬品安全管理研修会 平成31年3月13日開催
  - ⑩ 内部通報について 平成30年4月3日、17日、5月11日、6月15日、7月13日、8月8日、9月14日、9月27日、10月9日、12日、11月8日、12月14日、平成31年1月18日、2月12日開催

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者

平成31年2月6日開催

平成30年度 特定機能病院管理者研修(2回目受講対象)受講

(主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構)

医療安全管理責任者及び医薬品安全管理責任者

平成30年12月2日開催

平成30年度 特定機能病院管理者研修(2回目受講対象)受講

(主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構)

医療機器安全管理責任者

平成30年9月17日～18日開催

平成30年度 特定機能病院管理者研修(初回受講対象)受講

(主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容           <p>国立大学法人弘前大学病院長の選考及び任期等に関する規程</p> <p>第3条 病院長の資格は、本学の教授であって、かつ、次に掲げる要件を満たす者とする。</p> <p>(1) 医師免許を有している者</p> <p>(2) 医療安全確保のための必要な資質及び能力を有している者</p> <p>(3) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者</p> <p>2 学長は、前項に定める要件の具体的内容について、選考を開始する前までに病院長選考基準(以下「選考基準」という。)として定め、公表するものとする。</p> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/>・無 )</li> <li>・ 公表の方法           <p>大学ホームページに記載。</p> </li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有・<input checked="" type="radio"/> )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有・<input checked="" type="radio"/> )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有・<input checked="" type="radio"/> )</li> <li>・ 公表の方法           <p>大学ホームページに記載。</p> </li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容  <p style="margin-left: 20px;">弘前大学医学部附属病院運営会議：病院の運営方針、中期計画、予算及び決算 等</p> </li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況  <p style="margin-left: 20px;">病院HP内の院内専用ページに掲載</p> </li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有・(無)）</li> <li>・ 公表の方法  <p style="margin-left: 20px;">（病院HP内の院内専用ページに掲載（外部からはアクセス不可））</p> </li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有・(無)）</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
福田 眞作	○	医師	病院長
伊藤 悦朗		医師	副病院長
大山 力		医師	副病院長
加藤 博之		医師	病院長補佐
大門 眞		医師	病院長補佐
廣田 和美		医師	病院長補佐
石橋 恭之		医師	病院長補佐
小林 朱実		看護師	病院長補佐・看護部長
小林 恒		歯科医師	歯科口腔外科科長
新潟 丈典		薬剤師	薬剤部長
川村 金蔵		事務職員	事務部長



規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 公表の方法  
大学HPに掲載
- ・ 規程の主な内容  
(人事等)  
国立大学法人弘前大学管理運営規則  
・ 病院長は、医学部附属病院を代表し、大学の方針に従い、医学部附属病院の管理運営をつかさどる。  
弘前大学医学部附属病院規程 他  
・ 副病院長、病院長補佐等執行役職員の推薦、指名、及び院内各部署等の長、院内各委員会委員の選考、指名、任命を行う。  
  
(契約等)  
国立大学法人弘前大学会計規則  
・ 予算責任者を部局の長と定める。(病院長が予算責任者。)  
国立大学法人弘前大学予算管理規程  
・ 附属病院を予算部局に定める。  
国立大学法人弘前大学会計機関等の事務及び職位等に関する規程  
・ 契約担当役(会計機関)として病院長を指定する。(附属病院を含む本町地区部局の所掌に係る契約を担当)
- ・ 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割  
副病院長 : 病院長の職務を助ける  
(総務担当, 経営担当, 医療安全担当, その他)  
病院長補佐 : 指定された事項を処理する  
(教育・研修担当, 研究担当, 地域医療担当, 看護担当, その他)
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
平成30年2月16日開催の第1回病院経営次世代リーダー養成塾に、医師及びメディカルスタッフの各代表を参加させた。  
平成31年2月9日開催の第3回病院長塾に、医師、メディカルスタッフ及び事務職員の各代表を参加させた。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 医療安全管理責任者，医療安全推進室，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務について医学部附属病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>② 必要に応じ，学長又は医学部附属病院長に対し，医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>③ ①又は②に掲げる業務について，その結果を公表すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>附属病院HPに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤野 安弘	青森県立中央病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
相馬 悌	黒石市国民健康保険 黒石病院院長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
長谷河 亜希子	弘前大学人文社会科学部 公共政策講座准教授		法律に関する識見を有する者	有・(無)	1
山崎 祥子	学校法人柴田学園 東北女子大学名誉教授		医療を受ける者	有・(無)	2

伊藤 悦朗	弘前大学大学院医学研究科小児科学講座教授(副病院長)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	①・無	1
加藤 博之	弘前大学大学院医学研究科総合診療医学講座教授(病院長補佐)		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	①・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

- 国立大学法人弘前大学コンプライアンス基本規則を制定し、コンプライアンス委員会を設置。
- ・学内にコンプライアンス総括責任者（理事（総務担当））を委員長とする「コンプライアンス委員会」を組織し、定期的な委員会開催により、法令遵守状況及び違反事項等の把握を行い、法令遵守の確保に努めている。
  - ・全ての教職員を対象とした「コンプライアンス研修会」を実施し、外部講師を招いてコンプライアンス全般に対する意識向上、周知徹底を図った。ほか、研修会に参加することができなかった者に対しても、後日、研修資料をホームページ上で公開し、啓発に努めた。

・ 専門部署の設置の有無（  有 ・  無 ）

・ 内部規程の整備の有無（  有 ・  無 ）

・ 内部規程の公表の有無（  有 ・  無 ）

・ 公表の方法

弘前大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>病院の予算執行状況等，管理運営に関する重要事項について監督する。</li> <li>・ ①役員会</li> <li>・ ②経営協議会</li> <li>・ ③法人内部監査（定期）</li> <li>・ ④監事監査（期末監事監査（監事ヒアリング））</li> <li>①②病院の管理運営や中期計画の進捗状況などの重要事項について審議を行う。</li> <li>③④調査票による病院の管理運営や中期計画の進捗状況などの重点事項の確認，及び病院長等へのヒアリング。</li> </ul> </li> <li>・ 会議体の実施状況（年28回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①原則 月2回（8月を除く第1,3月曜日）</li> <li>・ ②原則 年4回（6,11,1,3月）</li> <li>・ ③④ 年1回</li> </ul> </li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>・無） <p>（ ①年22回，②年4回，③④年1回 ）</p> </li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）</li> <li>・ 公表の方法 <p>弘前大学HPに掲載</p> </li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ②経営協議会</li> <li>・ ③法人内部監査（定期）</li> <li>・ ④監事監査（期末監事監査（監事ヒアリング））</li> </ul>			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
②経営協議会			
佐藤 敬	国立大学法人弘前大学	○	<input checked="" type="radio"/> ・無
吉澤 篤	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> ・無
渡邊 淳平	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> ・無
伊藤 成治	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> ・無
郡 千寿子	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> ・無
石川 隆洋	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> ・無
福田 眞作	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> ・無
安川 あけみ	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> ・無
青山 祐治	青森県		有・ <input checked="" type="radio"/>
今井 高志	株式会社日産サテオ弘前		有・ <input checked="" type="radio"/>
岡井 眞	岡井公認会計士事務所		有・ <input checked="" type="radio"/>
九戸 眞樹	元弘前市教育委員会		有・ <input checked="" type="radio"/>

南谷 毅	株式会社東奥日報社弘前支社		有・ <input type="radio"/> 無
櫛引 利貞	カネショウ株式会社		有・ <input type="radio"/> 無
熊地 貴志	みちのく銀行		有・ <input type="radio"/> 無
島 康子	Yプロジェクト株式会社		有・ <input type="radio"/> 無
永澤 弘夫	弘前商工会議所		有・ <input type="radio"/> 無
三國谷 勝範	預金保険機構		有・ <input type="radio"/> 無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
③法人内部監査			
加藤 恵吉	人文社会学部 教授	○	有・ <input type="radio"/> 無
小菅 正裕	理工学研究科 教授		有・ <input type="radio"/> 無
和田 美亀雄	教育学部 教授		有・ <input type="radio"/> 無
長谷川 公栄	附属病院 経営企画課課長補佐		<input checked="" type="radio"/> 有・無
齋藤 伸雄	財務部 財務管理課長		有・ <input type="radio"/> 無
澤田 和則	法人内部監査室 室長補佐		有・ <input type="radio"/> 無
佐藤 育世	法人内部監査室 専門職員		有・ <input type="radio"/> 無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
④監事監査			
山内 浩	国立大学法人弘前大学 監事		有・ <input type="radio"/> 無
澁谷 尚子	国立大学法人弘前大学 監事		有・ <input type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。



規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の  
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院HPに掲載</li><li>・ 新採用者オリエンテーションで説明</li><li>・ 医療に係る安全管理等の研修で説明</li></ul></li></ul>

(様式第 8)

弘大病経第 230 号  
令和元年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

弘前大学医学部附属病院長  
福田 眞作

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

[Redacted content]

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（0）名  
うち医師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（0）名  
うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名  
うち看護師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医師の専従について、現在は就業時間の 5 割以上を当該業務に従事する専任職員を複数配置しているところであるが、令和 2 年 3 月末までに専従職員を配置する予定である。